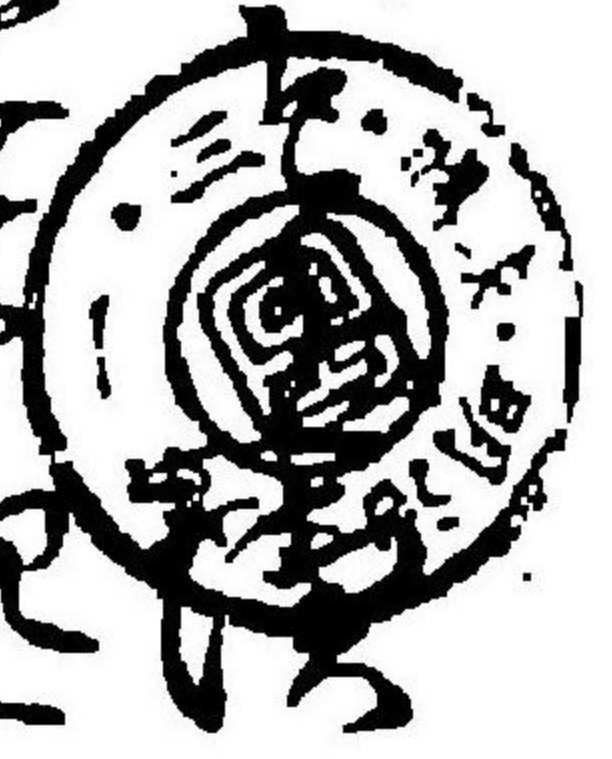


245
35

俳諧三千題早引畧解

何れも本姓
 精棟元と云ふ
 名は是れ也
 其の字は
 長生と云ふ
 其の字は
 長生と云ふ
 其の字は
 長生と云ふ



其の字は長生と云ふ
 其の字は長生と云ふ
 其の字は長生と云ふ
 其の字は長生と云ふ

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、

物に心して一に便者。其の心は、
討伐の心。其の心は、

已能申す。 抱きしむ可也。

少能成之。其の心は、
有る。其身自若。其の心は、
昔既多習。其の心は、
其の心は、
其の心は、
其の心は、
其の心は、
其の心は、
其の心は、

台影。似。無。嘗。欲。清。君。一。日。相。未。言。
激。矣。日。以。之。何。為。可。道。色。之。其。者。經。
有。以。之。無。借。醜。亦。不。朽。故。亦。可。道。亦。不。已。
遂。無。海。中。日。味。之。身。信。免。泉。石。之。
紅。濁。難。養。之。悅。也。刪。補。詩。律。藉。之。每。
數。據。大。要。之。之。經。言。之。也。出。院。弱。之。味。

博。於。記。之。之。海。油。之。其。亦。風。化。海。之。
之。美。於。是。也。故。名。之。為。海。中。之。生。
時。有。怪。之。見。也。也。王。都。之。帝。之。乃。其。所。
來。也。是。故。其。年。之。也。所。生。何。如。其。厚。海。
之。以。之。其。年。之。所。為。也。其。年。之。生。
也。為。之。年。之。也。其。年。之。也。其。年。之。也。

必有一回在。既見。誘去。欲為。切。能
之。即。其。律。也。某。者。無。能。廣。之。言。也。
嘗。一。齋。與。其。全。影。之。言。也。出。志。候。在。之。矣。
明。記。在。中。一。月。房。中。甲。容。在。之。
臺。襖。於。小。岳。山下。在。仲。齋。



自叙

余謂日月雖照山海。而人非有兩
眼。無知其清明。蓋雖有兩眼。不仰
日月之光。則雖尺寸間。亦難見之。
音樂雖具律呂。而非有雙耳。豈得
聽之耶。鼻舌身意之用。皆準之者
與。凡為人者。六根俱該。而誰不明

其道耶。師父施教。而不成者。抑愚之甚也。余頃日好讀唐宋以來小說。而見先哲釋義之書。其中一物。而有數說者。初學惑之。難以可決矣。又分題許多。雖有其季節。而難部分之。亦不成即時之用也。故略說縮解。而著一小冊。尚施國字。令

之易誦。以充初學席上之採摘矣。嗚呼。余陋學謏才。徒費工夫。不得要領。譬之梁間燕子。未覩大洋。而妄開細喙矣。蓋俟大方之訂正耳。

河源五味寥左



凡例

一 祖をたぐひたる人の白との色をさるべきものもあつたはれはこれをも
 一 巻中略字圓四邊等 皇皇の國口の利者の方を飾うてこれを祖より
 一 イロハ入りの物もよきも少部柄に或は柄合せ柄ナシ部柄系もよき
 一 利者九部 鹿梨木の形つらハ本柄のものとこれをもつた
 一 イロハのうち題柄もよきハ本柄柄物生け神紋等とあつてもこれを
 一 柄ナシ部柄もよきハ又易き作りの物をたさる
 一 巻末人多縁ハ傍方き車もこれをたすは大概巡らさるれをたすは
 一 西京浪花柄もよきハ神宮の地ぬれハ本柄の時のきり
 一 姓名のあつた者もよきハのすまをのせつてハ本柄のきり
 一 たさるハ柄もよきハ柄柄のけいもつたる作をもつた
 一 内中又人名録の中へ本家の標もつたハ本柄のきりもつた
 一 本柄のきりもつた
 壬申孟夏 家左百祥



明治詩集

發自集... 題早引略解

春之部



文豊齋 家左編
 施無畏庵 井海校

春

春之部 物之動生ル貌 又発也草木芽が發ス也和訓義解

一説アル也 又白張也 初説ヨシト云

| | | | | | |
|----|----------------|----|-----------------|----|----------------------|
| 陽和 | 白居易詩先遺 | 花蓋 | 夏侯漢賦終 | 韶光 | 韶ハ美也春景 |
| 勻芒 | 小隼氏子重 上木ノ神也 | 蒼天 | 氣發而色蒼 々々リ故ニ云 | 青陽 | 天地ノ徳春ハ木ニ アリ木色青キヲ云 |
| 太皞 | 伏羲帝 フ也 木徳 | 青帝 | 春ノ神也 | 東君 | 顔師古曰 日ノ神也 |

春

少き心 蘇きたるをの松 井海
 梅もあふ梅も房もまじり 孤竹
 まじりやゆれぬ 藤の若葉 風外
 年むとらふ 一斗味 老のま 李白
 こもの 松山あれりしとらふ 風葉
 根と世居るは やまの松 錦玉
 照りも 葉の けはたのま 可秋
 人をも 乾く 樹やけのま 右良
 大なる 浅すくまや 秋のま 久羊
 まも 又のま けり 香雲
 けきさうり 初陽のまのまの人 九江
 ぬすの ぬすのま やまのま 雲雲
 水さす まむぬすのまの不二 月規
 細すまの 布て世も 庵のま 玄喜

さきなりて 春のまや 一斗 志 范大
 ぬすのま 乃て ぬすのまのま 文貞
 ま味 ぬすのまのまのま 春華
 ぬすのま 位をぬすのまのま 迦孫
 ぬすのま ぬすのまのまや 好のま 志雄
 ぬすのま ぬすのまのまのま 鶯春
 ぬすのま ぬすのまのまのま 致誠
 ぬすのま ぬすのまのまのま 旭齋
 ぬすのま ぬすのまのまのま 素伯
 ぬすのま ぬすのまのまのま 白左
 ぬすのま ぬすのまのまのま 羽人
 ぬすのま ぬすのまのまのま 古豊
 ぬすのま ぬすのまのまのま 寒左

白眼静居中 除塵慰一躬 松構延聖意 竹有薦賢工 寒左
 風動山含笑 雨休川吐虹 紙田全歲賦 應熟墨耕功

正月 一月ト云ズシテ正月ト云ハ正ニミト云ヤ也
 甫月 開端
 限月 示雅ニ正月、一ナ云限ハ寅ノ位也

孟春 發春
 獻春 開春
 上春 發歲

初春 初陽
 三陽 新陽
 謹月 初ヲ謹ムベキギヲ示ス也

夏正 大禹以益徳都塗邑以建寅之月為歲首
 暮新月 年々テ新ク成ル也
 寅月 初空月

早緑月 睦月 略也
 早緑月 睦月 略也
 早緑月 睦月 略也

るの 春をわやむ月の色 為山
 梅の 春の梅の月 梅休

正月の移りては、精知 木前
 初雪や初霜の里家カ 亦生
 正月やわの人のまゝ 素光
 結ぶもまきのまきむ月サカ 竹陰
 正月や別本舞の流るるテ
 正月もや丸のやむテ 樵更
 正月やふのまきむ月カ 竹堂
 正月やん結んでまきむ積翠

正月の移りては、木前
 正月の移りては、カ 亦生
 正月の移りては、サカ 竹陰
 正月の移りては、テ
 正月の移りては、テ 樵更
 正月の移りては、カ 竹堂
 正月の移りては、積翠
 正月の移りては、木前
 正月の移りては、カ 亦生
 正月の移りては、サカ 竹陰
 正月の移りては、テ
 正月の移りては、テ 樵更
 正月の移りては、カ 竹堂
 正月の移りては、積翠

イ

○節

寝積 寝舉 三月 起臥去寝ト縮ト和訓相同ト故祝詞トルカ積モ
舉モ 又縮ノ縁語也寝臥常ノ唱ハ病床ニ紛シク云也
 冬之候のうけて暮つむ葛峯
 初雪のうけて暮つむ依山

正月の移りては、木前
 正月の移りては、カ 亦生
 正月の移りては、サカ 竹陰
 正月の移りては、テ
 正月の移りては、テ 樵更
 正月の移りては、カ 竹堂
 正月の移りては、積翠
 正月の移りては、木前
 正月の移りては、カ 亦生
 正月の移りては、サカ 竹陰
 正月の移りては、テ
 正月の移りては、テ 樵更
 正月の移りては、カ 竹堂
 正月の移りては、積翠

凍解

氷洋ハ意

そのらのまじりての歌ハ 桃壽

芋頭

カシラチカミト唱ルハ多子生、祝言也

そのらのまじりての歌ハ 仁里

○植

磯菜摘

海藻ノ類モ イソナラシカ

そのらのまじりての歌ハ 雪湖

一葉草

ツノ國サノ、神社ニテ一葉一葉葉ハ、葛ニ似テ花形ハ、梅ニ似リ莖ニ三寸許、寒中葉ヲ生シ立春ニ必ヒラク也

○生

飯蛸

小ッ凡五六寸許其頭加雜卵頭中ニ満白肉者食ハ其肉如蒸飯、正月盛ニ出バン州高砂産美、異名辯真

○神

イソシ祭

○饗盛、ツノ武庫郡塩尾村、宣判、炬松ヲ灯シ、参詣ス前年男子生、家、米一石集テ強叙トシ、春毎配、食、イソシ云

伊勢

十四日大神宮ノ神祓御延ニ本柱ヲ
正月影ヲカキ其年水増減ヲ知ル

石巻踏占

十五日故園ノ
式二月ジ

六餅

又六入大和口、俚語テ去年稼タルセオヤ里へ行オモチヲ送ル
是テ御十六、云是テ略、云カ

六餅
是テ御十六、云是テ略、云カ

六餅

ハ

初日

初日影

初日出

初明

初空

衣女の髪もくらく初日
初日影をたえとてまきり
初日影をたえとてまきり
初日影をたえとてまきり
初日影をたえとてまきり
初日影をたえとてまきり
初日影をたえとてまきり
初日影をたえとてまきり
初日影をたえとてまきり
初日影をたえとてまきり

好高
雪鷹
以上
とま
柳枝
素月

初日影をたえとてまきり
初日影をたえとてまきり
初日影をたえとてまきり
初日影をたえとてまきり
初日影をたえとてまきり
初日影をたえとてまきり
初日影をたえとてまきり
初日影をたえとてまきり
初日影をたえとてまきり
初日影をたえとてまきり

三岳
琴壯
和親
旭春
如春
平山
道徳
雪洲
窓左

初化春

古くは春の初

車海

春の初は春の初

三頁

人いさそま

主布

山見し初

柳糸

勝のまやま

爪菜

人いさそま

琴堂

さくさく

香芸

鳴り今

笑親

あつたけ

芥甫

あつたけ

完鷗

あつたけ

素北

あつたけ

素北

あつたけ

桃仙

あつたけ

羽人

あつたけ

常暗

あつたけ

迦孫

初春

初手水

初掃初

初手水

真高

初高

初賣

二日此日食酒

初手水

真高

初荷

初市

初手水

真高

初曆

曆開凡曆チウハ冬トシ

初手水

真高

初霞

初見或ハ開クチ春トス

初手水

真高

初霞

初見或ハ開クチ春トス

初手水

真高

初霞

初見或ハ開クチ春トス

初手水

真高

初霞

初見或ハ開クチ春トス

初手水

真高

初霞

初見或ハ開クチ春トス

初手水

真高

初霞

初見或ハ開クチ春トス

初手水

真高

初霞

初見或ハ開クチ春トス

初手水

真高

日のあや一節那と初夢
 晴や雪のうららかなる
 不のちき山のかげや初夢
 一満
 知温
 里梅

たるとる影乞の山や初夢
 初夢やハまほしくうら
 ねをねまほしくや初夢
 三つら
 地もあれのまほしく初夢
 泉雲

初夢
 紀事曰凡初トハ大晦日、夜
 元日至子ノ以画船布目撰扱
 初夢ハ又る長月ハ
 初夢ハ又る長月ハ
 初夢ハ又る長月ハ

初夢やまほしくつのもあし
 不レ世のさるや初夢のまほ
 初夢を布直りリ日紀撰
 寒左

初世居
 二日紀事曰四條河原浄リ初
 女等始之武江塚町大坂道
 堀等モ又然の出雲大社巫女始元
 子ト云今カニ若ト云

年終まほしく初世居
 又る初世居
 又る初世居
 又る初世居

初子日
 宇多天皇寛平八年正月六日有子日
 侍ハ人毛子歳ノ齡ヲ保ト此日登高山望四方得隊秋静気除煩恥衛
 可録
 旭高

初子日
 初子日
 初子日
 初子日

初子茶碗
 相馬家ヨリ献上ノ茶碗之例年
 焼シテモフムハ画馬ニ臣ハ一ツ
 中村云云トヤリ相馬マキト云

初子茶碗
 初子茶碗
 初子茶碗
 初子茶碗

春駒
 故事要言曰年ノ始ニ馬ヲ作テ頭
 アリ是ハ禁中ニテ正月七日白馬
 御ラテ有是テ下ニテ侍ルニヤ

春駒
 春駒
 春駒
 春駒

葩前賣
 元日榎天寺ノ民家用河
 内上糴米穀畧混熟之

葩前賣
 葩前賣
 葩前賣
 葩前賣

羽子板
 胡鬼板
 羽子ツク
 〇ヤリ羽子
 世哉問答曰推キ者ノコキ
 食ルマシトハ秋ノ始ニ
 摺

羽子板
 羽子板
 羽子板
 羽子板

同爆
 十五日トドトノ火ニテヤクナリ
 ヤクト云言ナ思ノカク云也

同爆
 同爆
 同爆
 同爆

鈴ト云虫出テ蚊ヲ取喰フコト云ハ木
ノ子羽ヲ板ノ上ニ蟻蛉返リテ蚊ヲ食

唄ニ「おののろや」
泉茂

カサカサの甲とや
如柳

カサカサの甲とや
如春

やうをこのまや
たふや
梅淡
うや

破魔弓 破矢

世談問答曰坐忘カ眼ノ腫ヲ抜テ木下ノ玉下シテリニ
重有シ故ニ引ルノ的ニ三重テ画テ中ノ腫ヲ除ク云

治世不忘武為ニ正月ノ戯ニ行カ又射
礼ノ小兒年中邪氣ヲ抜る破目ヲカシ

射テテや折テ一ツキ
英雄

萬春樂

是ハ路所ノ夜ノ曲ハ夕ノ詠ヲ漢文ニウケ毎アハ三万春樂ト
唱ルニ「春宵轉ニ梅カえ」
各詠ノ夜詠物

七日正月

今日地下人遊ス小豆
カシ子ヲ食フ是才正月ト云

はるのまき
仁里

春雪

春ハひそかニ花ノ命ヤまの雪
井海

歌原のまを
楠翠

春ハひそかニ花ノ命ヤまの雪
金葩

春ハひそかニ花ノ命ヤまの雪
里梅

春ハひそかニ花ノ命ヤまの雪
笑山

春ハひそかニ花ノ命ヤまの雪
明京

春ハひそかニ花ノ命ヤまの雪
友甫

春ハひそかニ花ノ命ヤまの雪
関外

春寒

春ハひそかニ花ノ命ヤまの雪
関外

春ハひそかニ花ノ命ヤまの雪
金壽

春ハひそかニ花ノ命ヤまの雪
芳城

春ハひそかニ花ノ命ヤまの雪
大年

春ハひそかニ花ノ命ヤまの雪
静窓

春ハひそかニ花ノ命ヤまの雪
波橋

春ハひそかニ花ノ命ヤまの雪
雲滄

春ハひそかニ花ノ命ヤまの雪
秀高

春ハひそかニ花ノ命ヤまの雪
琴山宗

春ハひそかニ花ノ命ヤまの雪
琴雅

春ハひそかニ花ノ命ヤまの雪
志道

春ハひそかニ花ノ命ヤまの雪
帆遊

春ハひそかニ花ノ命ヤまの雪
うや

春ハひそかニ花ノ命ヤまの雪
潭洲

春ハひそかニ花ノ命ヤまの雪
可推

蒼天の晴くまなく初トモ 琴和
のきりつてすてらうしん下 春城
転るハまふん地えわりの上 帰雲

○食 齒固 齒ハ今年齡ま
也延年固齒ハ

元日朝天皇清涼殿ニ御入ハ固真ハ 獻
人生ハ月ヲ生齒ハ歳ハ 凱齒是人壽數也

海羸身 海中ニ生ス小キ螺也夕ニヨリ
大ニ商家除夜ヨリ歳始必
用ノ酒者ハ 千階万階祝詞子

○神 鉢扣出初祝義ハ 空地
堂

初寅 獅々頭山崎馬寺詣ニ是ナリ參ト云此日ムカテラ賣是ヲ才福ムカテト云
兼聞天王使令スル如ク者ニ凡クマテ難カハ難好テムカテラクテ故ナリ

とて年のそく掃き初ハ 寒方
めりりその掃や初ハ 二女
あつたもあつた初ハ 寒左

とて年の物感もあきりハ 其海
くくちも先掃きハ 仁里
とてちもあつた初ハ 伯高

北日團子 紀事曰今日地下人各
遊遊ス是ヲ北日正月ト云
食赤豆團子ヲ為佳節

裸踊 十六日野法界寺又伏見七色川
ヤ名堂ハ 法会ニテ台里民踊ハ

初卯 横州任吉社ハ詣ル云今日詣
者ハ神背ヲ檢テ是ヲ卯札ト云

初天神 廿五日京師ハ北野江ノ湯
島大坂ハ天満別而詣多シ

長谷名押 十四日參詣群集メ廊下ヲフミナラ押合登ル云○伊賀口ヤ田社
ハ、押ハ辺々五、九ノ百姓双方ハ念ヲ拝殿ニ押合勝劣ニ年豊出サトル

初不動 二十八日今日縁日故諸
口一參詣多シ 故 梅花酒 雀實カ月令ニ元旦
是ヲ吞ハ老ヲ退ハ

庭竈 紀事ニ曰火灶ヲ庭上ニオキ
合家席ヲ鋪團座食ハ 湯ニ毛ムハ例ハあつたを重、里三
きちちの切をのちやるく多シ 杉柳

老の居る可うと云々を多シ 櫻谷
説文曰民堀内ヲ場ト云庭字モ用ル
也

女叙位 八日セノ位階ヲ叙セラル也
叙位ハ位ヲ定ルナシ 女王祿賜ハ 八日サ議事官人永明門
内帷坐テ一ニシラフ

公事ナサセ字ヲ読ハ 只
王祿ハカク呼口傳也云 二宮大饗 二日大舞以下二宮ニ參リ拝礼有テ食ニ
シクも也二宮ハ東宮中宮御事也

二

螺青

本草曰蝸贏類名曰螺師時稱曰師衆多也其形蝸牛以類多

故有二三名惟食泥水此者為新年酒者似海贏一故並用字

搗艾草を湯で出りし者
小まじり一人おやうとるる
寒多左

ホ

蓬萊節

紀事曰和俗新年三方臺。橙穂棗。干梅。密柑。榎。柑子。鬼籠柿。昆布。野老。海老。橘。串柿。芋。置。供。佳。客。福。新。年。

列子曰渤海東二山アリ一曰岱輿二曰員嶠三曰方壺四曰瀛州五曰蓬萊トイフ
花寶味ヨリ是ヲ食ハ不老不死
一臺是ヨリカニ方ハ合セ名正西ニ

あらしの白きまや身ハ 甘海
あらしのやがたのちのちハ 葛草
あらしのまじりのまじりハ 菊泉
あらしのまじりのまじりハ 一陽
あらしのまじりのまじりハ 千菓
あらしのまじりのまじりハ 雲清
あらしのまじりのまじりハ 蓮葉
あらしのまじりのまじりハ 蓮葉
あらしのまじりのまじりハ 蓮葉

星佛

骨積雜記曰當年星九曜是
歳初ニ祭之為其星形像ヲ仏上

所ニ院中へ出ス是ヲケニミツ行者或隊
陝家へ仰テ星供ヲ行セ玉フ

星のつらきとて、あぬを、仏
夜のつらきとて、あぬを、佛
夜のつらきとて、あぬを、佛
夜のつらきとて、あぬを、佛

穂俵

天下変名ニヨリテ祝
呂トス 神馬尊也

穂長

穂長ニ部
穂長ニ部
穂長ニ部
穂長ニ部

寶引

福引

骨正月

京大坂新年、賀ニ必郷、脯ヲ用テ其魚、骨大豆酒ヲ拍テ入
煮熟、節物ト食テ故ニ名

うたて、あぬを、骨正月の表を、如春

堀入大根

野大根
部説

于蕪干菘

于蕪干菘、あぬを、あぬを、あぬを

年立幕

桃仁湯ヲ服ス元日

年花

膏藥

主上ハ千菘膏
トテカクヤク進ニ

年玉

新年、賜ト云心ニ玉ニ祝シテ
云ルカ 年玉ト云ハアモ、

賀初老

うりりやあぢの節年のか 其成
とよやねあぢの節年のか

屠獲

屠獲散紀事ニ古屠字忌死尸之ヲ作是本朝故実ニ江次房曰酒飲
邪秀皮膚ヲ去「手故」柳酒ヲ「手」訓、今世馬、高、四、ハ、七、我、我、云

とよの香やあぢの味きおる春 其海

はつとよのあぢやあぢの節 覺志

とよのあぢの節あぢの節あぢの節 龜井

年男

年、コシノ豆ヲマツリ正月ニ去テ
ツトム故ニ名ク

とよのあぢの節あぢの節あぢの節 新花

とよのあぢの節あぢの節あぢの節 氷堂

とよのあぢの節あぢの節あぢの節 金壽

とよのあぢの節あぢの節あぢの節 氷堂

とよのあぢの節あぢの節あぢの節 火芭

とよのあぢの節あぢの節あぢの節 如柳

とよのあぢの節あぢの節あぢの節 可練

とよのあぢの節あぢの節あぢの節

とよのあぢの節あぢの節あぢの節

とよのあぢの節あぢの節あぢの節

とよのあぢの節あぢの節あぢの節

とよのあぢの節あぢの節あぢの節

とよのあぢの節あぢの節あぢの節

とよのあぢの節あぢの節あぢの節

とよのあぢの節あぢの節あぢの節

年棚

年徳神恵方棚ト曰俗工方方、
向テ高ク架ケル是年徳棚ト云

とよのあぢの節あぢの節あぢの節 月杵

鳥追

とよの人元日ヨリ十五日止マテ若
白ハテ以テ面ヲ覆ヒキテ、キ祝語ヲ

唱ヘ米銭ヲ詰セ也元氏
間由鳥ヲ追掃リヨリ出

泊山 泊狩

鳴鳥狩朝鷹等ト曰山野ニ出テ宵
雉子鳴ルヲ聞置未明ニ行テ又聞スハ鳥云

とよのあぢの節あぢの節あぢの節 仁里

宿直人

昼アムムルヲ直トイヒ夜ツト
ムルヲ宿イフ合曰止乃伊云

爆

爆、サ、部ニ出ス

飛梅

昔家左辻子
東風吹テ御詠出

十カク花

松ノ花ニ
マ、部ニ出

トカカシ梅

モトメコヨカシ
梅ノ略ナリ

野老

和漢三才図会曰ソノ葉類ニ著藤ニ似リ小白花青キ子ヲ結フ三ツカド也
其根古ハガキニ等シ形ハイス俗ニ野老ト云、野老ト云ハ海老ト云ハ共嘉祝食ニ云ル

鳥交ル

少長や交ルをカカヒ山
こハんクるヲ押シたカらシとシらル。

挑符〇 札板〇 挑投此 歌脱ス
ウノ部カウレイニ出ス

年徳神

東叡山天黑湯三日御福湯云 参詣人餅

十日夷居籠ノ井ノ部ニ釈人

千代春 千々春

有クハシをツクシとシてハの身 可秋
いハしをねむこもんを千代の身 寿花

地黄粥

佛性也を老も肥く千代の身 寒左

帳釘 帳書 帳祝四日和俗幣

将トとセおのしましまんを平一
とらんくと情をくくくいのの身 雪洲
将トとのやセののとくえん也 寒左

帳ト云諸商人今年内ウリ買簿書
ナ怒ニ是ナ帳ト云酒食ト祝フニ

履端 履新之慶

リクニシテシタムニ改行年端ヲマシ賀ス心ニフマルハ領ス
心カリシテ心改年御慶云ハ履端手始掃箒手終傳左

西ノ物料書開豆門牛薦カ

つとろろ今年の西の身 寒左

縫初

臨時客概閑家ニ大臣以下ノ郡ヲ概
下ノ事ニ非ズ云

男踏歌十四日殿上地下ノ輩然ルヘキ御テテ巡リテ催馬ニシテマヒマヒニテ
我朝持統帝漢人未テ奏ス此乃春染今ノ歳此餅瓜カ

女踏歌十六日男トシ如シ京中ノ男ヤ声ヲ新シト唄ヲ呂テ年始ノ祝詞
作リ或ハ弁ヲ唄ト詩ト唄ハ也乎 うつくさの身の身の身 新花

チカチ打十四日ノ夜甲州ノ俗前燭ノ家ニ至リテ踊ルニ其家相有テ
以テモテ大夜及節今ノ夜ノお龜打サモニナリ

女礼者注ニ不及 女節分十九日ノ夜吉田ノ疫神ヘテ詣ル也男ハ節分ノ夜ヨリ詣ル也ハ事多キ故今日マイル也

ワ

若水。若水桶

若水の桶を桶や桶の物 井海
 若水や若水の桶を桶や桶の物 皆苞
 若水や若水の桶を桶や桶の物 市山
 若水や若水の桶を桶や桶の物 一山
 若水や若水の桶を桶や桶の物
 若水や若水の桶を桶や桶の物 佳境
 若水や若水の桶を桶や桶の物 桃文
 若水や若水の桶を桶や桶の物 九江

輪飾

若キ年早春ノハ

菓盒

ワラニテハ門松結甘此内へ
供物準備に幸甚電之類也

若水や若水の桶を桶や桶の物 喜逸
 若水や若水の桶を桶や桶の物 方明
 若水や若水の桶を桶や桶の物 小軌
 若水や若水の桶を桶や桶の物 美明
 若水や若水の桶を桶や桶の物 春城
 若水や若水の桶を桶や桶の物 二蝶
 若水や若水の桶を桶や桶の物 寥空
 若水や若水の桶を桶や桶の物 蘿慶
 若水や若水の桶を桶や桶の物 九如
 若水や若水の桶を桶や桶の物 桃寺

若菜

初若菜 上子口内膳ヨリ
上ニ寛平年古リ始ルニマ

若菜の桶を桶や桶の物 魚石
 若菜の桶を桶や桶の物 清雲
 若菜の桶を桶や桶の物 依水
 若菜の桶を桶や桶の物 月亭
 若菜の桶を桶や桶の物 三峽
 若菜の桶を桶や桶の物 琢書
 若菜の桶を桶や桶の物 斗大
 若菜の桶を桶や桶の物 雲靈
 若菜の桶を桶や桶の物 嶺外
 若菜の桶を桶や桶の物 梅崖
 若菜の桶を桶や桶の物 松園
 若菜の桶を桶や桶の物 完鷗

若菜の桶を桶や桶の物 知温
 若菜の桶を桶や桶の物 雲海
 若菜の桶を桶や桶の物 新登
 若菜の桶を桶や桶の物 如春
 若菜の桶を桶や桶の物 平山
 若菜の桶を桶や桶の物 兩後蒼々春色團東風吹
 若菜の桶を桶や桶の物 瑤緑初肥双々胡蝶菜花
 若菜の桶を桶や桶の物 雲龍
 若菜の桶を桶や桶の物 雲中
 若菜の桶を桶や桶の物 晴窓
 若菜の桶を桶や桶の物 嘯堂
 若菜の桶を桶や桶の物 乙帆
 若菜の桶を桶や桶の物 奇兆

つねのちかづつていづれもい 音氷

カロウのちかづつていづれもい 田彦

ひのちかづつていづれもい 時習

さうちかづつていづれもい 芳城

さうちかづつていづれもい 蒼古

凡がけいづれもい 水亭

懸鯛 元日鯛魚一匹ヲ結ビツルハ地蔵
上ニ掛ルハ六月一日食ハヌ疫飛サラス

加古物鏡 檜州守の自家元日ヨリ七日マテ
石物音禁ス過有ハタルト也

書初

粥木 粥占 粥杖

つねのちかづつていづれもい 貞幽

カロウのちかづつていづれもい 仁里

ひのちかづつていづれもい 釣月

さうちかづつていづれもい 一瓜

さうちかづつていづれもい 寒彦

凡がけいづれもい 寒彦

買初 門礼帳

ちかづつていづれもい 依山

ちかづつていづれもい 机一

粥柱 十日粥ノ木ニテサ尻ヲ打ハ男子
持元也トテ打テアリサハ打テ防シ

信州ヒハ三月ナドニテハウツラ木ナ一尺ニ寸許切上下ヨリ削カテ先方ニサシノ形ヲ紙ニ
切粘ニテ張烟テス取除ハ形見是ヲ名御祝棒云新婦腰ヲ打テウムトス

人指と申ハ形ノ多クハウツラ木ナ一尺ニ寸許切上下ヨリ削カテ先方ニサシノ形ヲ紙ニ
切粘ニテ張烟テス取除ハ形見是ヲ名御祝棒云新婦腰ヲ打テウムトス

植 カノ島梅 京祇園境内ニ
アリ宗祇ノ句アリ

生 頼奥烈示 埤雅曰懶取
鯉ヲ於水齋

四方ニ陳マシテ進マシテ不食也世是ニ
ヲ祭ルト云 蓋奈其先也

食 鏡餅 モチイ
カハミ

鏡臺祝 初日祝ト云意ニテカニニ
スヘタル餅ヲ祝ノナリ

貞幽

仁里

釣月

一瓜

寒彦

寒彦

司執

うま

依山

机一

粥柱

粥柱

粥柱

粥柱

粥柱

粥柱

粥柱

粥柱

粥柱

粥柱

粥柱

粥柱

粥柱

粥柱

粥柱

粥柱

粥柱

粥柱

粥柱

粥柱

粥柱

粥柱

粥柱

粥柱

粥柱

鏡開

開トハ神衣トヘ上ヌルヲ下ケ七日又ハ十五日ニ食フ也キルト云フヲ忌テ云自古以餅為神明具圓キ擬鏡

鏡草

大内ニテ餅ノ上ヘ置置大根ヲ云大根ハ冬ノ季也春ハ一ト云ベシ

美美祝

雜者ハ餅ニ多穂雜故略云

榎

蓬萊飾ニ具是ヲ食ハ壽ヲ延

搗栗

勝守更万華カガ

様子

數子

鮒ノ子也祝ノ者トス多子ヲウムノ義ニトル

秋ノともやいともふかゆき

井海

秋のともやいともふかゆき
秋のともやいともふかゆき
秋のともやいともふかゆき

香芸
松園
九月

○神

門神棚

在家書カニ棚ヲ構テ祭ル

鹿島事觸

正月三日

蛙船神事

元日信州諏訪神人御前川ノ氷ヲ叩ハ蛙三足踊出是ヲ以テ射御供ニ備テ○万代ヤシクシ川ノ氷ヲ叩ハ蛙三足踊出是ヲ以テ

鍵引

七日伊賀上野村山神ニ注連ヲ結甘頌文ヲ唱フ是ナリト云山ヨリ田畑勸請スル也

宵年

去年古年ト云ニ同シ

四方春

何ト見テ春ノ気色具ルカ云

淀屋橋祝儀高

四日吉堂島米市初

あつあつとやうな雪がふり出すのち

井海

あつあつとやうな雪がふり出すのち

寒左

餘寒

春寒ト曰意説文ニ餘ハ殘也則殘ル寒也

あつあつとやうな雪がふり出すのち

武栗

あつあつとやうな雪がふり出すのち

嶺雄

あつあつとやうな雪がふり出すのち

山峯

あつあつとやうな雪がふり出すのち

素蝶

あつあつとやうな雪がふり出すのち

か林や

あつあつとやうな雪がふり出すのち

三豆

あつあつとやうな雪がふり出すのち

雪登

あつあつとやうな雪がふり出すのち

今哉

あつあつとやうな雪がふり出すのち

杏郷

あつあつとやうな雪がふり出すのち

基雨

あつあつとやうな雪がふり出すのち

滝水

あつあつとやうな雪がふり出すのち

半湖

ヨ

あはれやしらん屋々 漆 亀北
降りの雨をぼろぼろと降る下 美袖

酢の味は人の心を食へり
梅の山一筋の雪は白く
うめ

蘆花ヨシハナ 嫁衣ヨメモノ 小菊コキク 似テ宿根百地
先ツ二月至ス葉可食野圃

一うねの隅へゆつらぬ花は
嫁衣のまじりたるふたふた
梅園
うめ

家園ニ分クテ用ニ蓄生ス秋花サ
野菊ニ似リオキハ似レ別也

梅を食ふてはゆくはゆき
方々の梅はゆくゆくはゆく
輝堂
仁里

嫁カ君 年相ハワケ用ノナキ

梅を食ふてはゆくはゆき
方々の梅はゆくゆくはゆく
輝堂
仁里

娘のそとにわらわら君 吾七
神神もをそとにわらわら君 音吟

梅を食ふてはゆくはゆき
方々の梅はゆくゆくはゆく
輝堂
仁里

丸ころり物もいふかゆき君 推史
丸ころり物もいふかゆき君 里三

梅を食ふてはゆくはゆき
方々の梅はゆくゆくはゆく
輝堂
仁里

吉田清夜ヨシタキヨ 十九日夜ニ入言甲ト部新年ノ行事
アリ斎場八ヶ処壇場ヲ構四方ヲ揮ス

延年講ヨシタキヨ 十四日又三
年五云

夕

立春。年立

まゝらやせへおぼろ人々 如洗
岸もえりもまゝらやせへ 志年
あややえととらやせへ 積翠
ふにのぼる霞のまゝらやせへ 可秋

あはれやゆめへのたぐり 不出
あはれやゆめへのたぐり 不出
あはれやゆめへのたぐり 不出
あはれやゆめへのたぐり 不出

玉春

太郎月 立松松飾也

梅を食ふてはゆくはゆき
方々の梅はゆくゆくはゆく
輝堂
仁里

寶船 初夢ノ夜ナレ今 松城
俗ニ日ノ夜敷也

梅を食ふてはゆくはゆき
方々の梅はゆくゆくはゆく
輝堂
仁里

店卸 帳ト糸ト同 旭翁
親ナリ

梅を食ふてはゆくはゆき
方々の梅はゆくゆくはゆく
輝堂
仁里

大黒舞

垣外ノ賤キ者大黒ノ姿ヲ模シ面ヲカク頭巾ヲ着民間門外
唄ニマフキ々嘉祝言ハテテ故也

大黒舞大黒と云ふは

市月

大黒湯

三日江戸護国院初津ニ雜飲
タイテ諸人ニ施ス

初七日初津の湯を

香芸

橙

代々ツツノ意故雖不
敬為嘉祝之果ナ

橙や蜜のせき一 位

仁里

田作

小殿原凡五万米凡小キ綱也
祝ノモトス 正字未詳

甲他や柳あきの

耳海 此木

俵子

俵海岸ト云云ナマコ也金コ半コトト敬多アリ
金花山ヨリ出ル〇春耕ガ糸切齒ハコトナリ

大元師法

八百ノ曹ニ至
柳前ナリ

休良

礼者

靈辰

人、日、也

ぬくろを法ゆを礼者ハ
文ニ至るもまをり礼者ハ
門ニちうひくや不をぬれ者ハ
石と茶の厚重をかり礼者ハ

三友 薩交 寒左

奏賀

奏瑞

元日越口ト告
タリシ事奉今日申

奏賀や若のたを、里、初

寒左

網引

十四日大舟人三并寺門前大船合
勝負付年言出知辺頃知ナリ

沼川の舟も沼の舟もハ
沼川や八ををををををハ
沼川や八の舟の舟もハ

里三 仁里

鷺尾鷹

ツバハタカバカチ雷ト見テハ返テシタ為トテ頼政鶴尾ニタシ云リ

何用ト云フヲ知大又白鳥トナ

寒左

鶴庵丁

十七日地事白 舞茶未始前大隅
高橋高年ニ勤ム舞茶ヲ群臣是ヲ賜フ

舞茶未始前大隅

東雲

土筆

筆シ花凡如筆頭形ヲ黄
緑有嫩節ト上着皮和食

如味、作形、動ハツリシ

東雲

持あり、行り、も、か、つ、り、ハ、
持あり、も、も、も、も、も、も、も、も、
ニ多スルハニ多ク伸クツリ

未明 井清

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

才馬 史考 外園

ツ

ソ

レ

子

さしほやうんれんそんま
 常足
 大芭
 左儀
 白雅
 朝来

年礼 年始状

年礼や祝の後のちねり
 龜石

子日遊

上陽子日遊
 又松根
 倚テコシテスリ松ヨシニマカルトナリ

今うてはねあきふり
 井海
 人又て時をえまひ
 石外
 杉の白に花ふり
 一山

伸るそんたふり
 志道

さきもきせれやん
 寥湖
 うらな
 寥左

年礼や祝のちねり
 如爪
 年礼や祝のちねり
 一山
 何少後えり
 春城

子日松

子日衣

禁リ此日
 古玉ヲ衣也

終る所とせは
 東雲
 又さきと松と
 磯首
 新き世と
 志つら
 雪潮

ちりり ねを指す
 來人

ねとん旭の子
 うらな

猫戀 猫交ルウカレ猫

りゆゆのやうかま
 素素
 ちやちやのねと
 我蝶
 窓のハ
 楠翠
 人ハ
 新花
 ちやちやのねと
 片月
 ねとん
 友耕
 ねとん
 雪兆
 さしほやうんれん
 鳥曉

神の猫のま
 かつこ
 花のねと
 史考
 ねとん
 松圃
 うらな
 雅仁
 行定
 蒼古
 存
 寄一
 ちやちやのねと
 鳳洲

念神

十六日河内吉田神前
 童子集テ
 石打念也
 正月卯地
 月ジ

ねとん
 うらな
 ちやちやのねと
 寄一

十七日正月

正月八少陽ノ月也七少陰ノ月也故ニ上朝廷ヨリ下方民ニ至ルマテ宴會ヲナシ若菜ヲツキノ食フテ子日ノ遺風ヲナス

内宴 二十一日仁壽殿ニテ文人ニ題ヲ賜リ詩ヲ作リ御前ニテ講セラル

生菜 立春ノ日食之取迎新之意

七草 七月七種ノ菜ヲ以テテラフヲナス是ヲ食ハ万病ヲ止

七種粥 七月鬼車ト云鳥

戸ヲ打灯ヲ消ノ是ヲハラト 和俗唐土ノ鳥カ日本ノ土地ヘ渡ラズ先ニト唱フルハ此鬼車ヲイム心也 板ヲ打ハ此鳥ノ止ニサレテラフ也 此鳥人ノ魂ガクダスト云

芥 白根 本草曰大小菽種アリ小ハ味美ニ大ハ不及三月起莖五寸小白花○秋冬ニヨリ春有テ夏ナキ也故ニ大ナキノ略也

五形 角麩草 本草曰仁耳草 和名母子草田野ニアリ二月初テ生ス 莖葉白ク脆シト云○又曰冬ク花赤紫葉丸ク細シ

鼓糸 續 莖葉又甚軟シ正月生莖葉大サ如ニ 指頭ニ月後老テ細白花結小実

佛座 又曰オバコ也○車前子ト云○又曰田平子ト

菘 二種アリ一莖田厚シ一薄シ自 正月八月ノ月黄白常葉長シ

蘿蔔 和ニ大根ト称ス物也七草ハ一ニシテ詞意ナク同意ニテ根葉ヲ云

松 二種アリ一莖田厚シ一薄シ自 正月八月ノ月黄白常葉長シ

松 二種アリ一莖田厚シ一薄シ自 正月八月ノ月黄白常葉長シ

雪北 椿岳 桑古 鳥脱 いち女 清川 桃史 逸松 松城 千木 箕山 椿岳

くもへらや松つたるるの地 有終
くもへら頂う 葉のふ所 其歳
くもへらなる 葉のふ所 其歳

くもへらや松つたるるの地 有終
くもへら頂う 葉のふ所 其歳
くもへらなる 葉のふ所 其歳

ム

六日年越

七日式日故
今更云ニヤ

結昆布

祝詞
ガ也

くもへらや松つたるるの地 有終
くもへら頂う 葉のふ所 其歳
くもへらなる 葉のふ所 其歳

寒多左

ウ

馬乗初

武門ノ專トスル処六カイン
其一ニハ弓始ニツツラ

謡初

二日諸家献賀
賜宴式アリ

賣初

寒多左

くもへらや松つたるるの地 有終
くもへら頂う 葉のふ所 其歳
くもへらなる 葉のふ所 其歳

くもへらや松つたるるの地 有終
くもへら頂う 葉のふ所 其歳
くもへらなる 葉のふ所 其歳

裏白連歌 同俳諧

四日共ニ北野社ヲ始ル懐紙四枚也執事誤ニ白紙
脱ス是ヨリ例ナカラシテ面ヲ白紙ニス一枚添五枚トス

卯杖

持統天皇三年乙卯日大学寮ヨリ卯杖八十枚ヲ
上ナリ日本記出テ祝杖ヲ献テ卯杖ヲ追ウナリ

卯植

日邪気
ヲ扱フ

土籠打

十四日畿内アリ西國モ又コソ
暮ヨリ曉ニ至ル一ナドテマ

くもへらや松つたるるの地 有終
くもへら頂う 葉のふ所 其歳
くもへらなる 葉のふ所 其歳

鬱墨

鬼門ニ神アリ神奈川ニ云霧鬼出入執テ以飼虎法ヲ而象之立柵板
門戸上ニ除惡鬼ノ柵板ハ以柵板ヲ作我歳且植門ノ柵符著ク皆除惡鬼

魚上氷

礼記日春春
氣ニ集メ上氷

雨水節

正月八日
散水ナリ

寒多左

裏白

菌朶穂長ト異名
同物ニテ部ニ表

嬰鳥芥末

くもへらや松つたるるの地 有終
くもへら頂う 葉のふ所 其歳
くもへらなる 葉のふ所 其歳

梅花

異名 冰姿 玉瑞 玉照 清容 木母 花兒 好柔 花標者 二花
春生 句 草ノ本朝古以梅鉢花中古以来為櫻菊梅花トス

紅梅

鐘梅 中輪
白色

梅

野梅

八重梅

| | | | |
|--------------|----|-----------|----|
| 口のつらさのあつらひのあ | 寒和 | 送るもあつらひのあ | 月 |
| 伴天狗のあつらひ | 井海 | 月舟のあつらひ | 暮奉 |
| 下格のあつらひ | | 一帯のあつらひ | 宿而 |
| 杖つらさのあつらひ | | 志色のあつらひ | 護外 |
| あつらひのあつらひ | | あつらひのあつらひ | 尊之 |
| あつらひのあつらひ | 為山 | あつらひのあつらひ | 鳳洲 |
| あつらひのあつらひ | 見外 | あつらひのあつらひ | 暮古 |
| あつらひのあつらひ | 等裁 | あつらひのあつらひ | 其殘 |
| あつらひのあつらひ | 春湖 | あつらひのあつらひ | 素麥 |
| あつらひのあつらひ | 如白 | あつらひのあつらひ | 哉蝶 |
| あつらひのあつらひ | 沙山 | あつらひのあつらひ | 躰堂 |
| あつらひのあつらひ | 千億 | あつらひのあつらひ | 素仙 |
| あつらひのあつらひ | 白文 | あつらひのあつらひ | 杏壽 |
| あつらひのあつらひ | 萬奉 | あつらひのあつらひ | 蕉月 |

| | | | |
|-----------|-----|-----------|----|
| あつらひのあつらひ | 李白 | 夜のあつらひ | 問柳 |
| あつらひのあつらひ | 希音 | あつらひのあつらひ | 梅燦 |
| あつらひのあつらひ | 竜士 | あつらひのあつらひ | 嵩登 |
| あつらひのあつらひ | 池丸 | あつらひのあつらひ | 桃史 |
| あつらひのあつらひ | 依水 | あつらひのあつらひ | 錦玉 |
| あつらひのあつらひ | 良古 | あつらひのあつらひ | 可秋 |
| あつらひのあつらひ | いぢや | あつらひのあつらひ | 千葉 |
| あつらひのあつらひ | 湖風 | あつらひのあつらひ | 一山 |
| あつらひのあつらひ | 雲秀 | あつらひのあつらひ | 雪湖 |
| あつらひのあつらひ | 存月 | あつらひのあつらひ | 蘿慶 |
| あつらひのあつらひ | 梧風 | あつらひのあつらひ | 藤株 |
| あつらひのあつらひ | 梅雄 | あつらひのあつらひ | 外月 |
| あつらひのあつらひ | 櫻谷 | あつらひのあつらひ | 十花 |

未明 正覚 里梅 有良 泉残 田柳 明京 春堂 楚山 叶窓 其音 一音 栗丘 芥甫
 未明 正覚 里梅 有良 泉残 田柳 明京 春堂 楚山 叶窓 其音 一音 栗丘 芥甫
 未明 正覚 里梅 有良 泉残 田柳 明京 春堂 楚山 叶窓 其音 一音 栗丘 芥甫
 未明 正覚 里梅 有良 泉残 田柳 明京 春堂 楚山 叶窓 其音 一音 栗丘 芥甫

英雄 可尊 三秋 明卯 圖留 竹師 此木 紫郊 梅守 史節 松涛 奇北
 英雄 可尊 三秋 明卯 圖留 竹師 此木 紫郊 梅守 史節 松涛 奇北
 英雄 可尊 三秋 明卯 圖留 竹師 此木 紫郊 梅守 史節 松涛 奇北
 英雄 可尊 三秋 明卯 圖留 竹師 此木 紫郊 梅守 史節 松涛 奇北

士敬 三友 里雪 交水 蘭徑 叶司 佳溪 藤流 露曉 松圃 由雄 滝水 松園 沢雄
 士敬 三友 里雪 交水 蘭徑 叶司 佳溪 藤流 露曉 松圃 由雄 滝水 松園 沢雄
 士敬 三友 里雪 交水 蘭徑 叶司 佳溪 藤流 露曉 松圃 由雄 滝水 松園 沢雄
 士敬 三友 里雪 交水 蘭徑 叶司 佳溪 藤流 露曉 松圃 由雄 滝水 松園 沢雄

英雄 可尊 三秋 明卯 圖留 竹師 此木 紫郊 梅守 史節 松涛 奇北
 英雄 可尊 三秋 明卯 圖留 竹師 此木 紫郊 梅守 史節 松涛 奇北
 英雄 可尊 三秋 明卯 圖留 竹師 此木 紫郊 梅守 史節 松涛 奇北
 英雄 可尊 三秋 明卯 圖留 竹師 此木 紫郊 梅守 史節 松涛 奇北

梅咲や初はらの柳、法、春旭
 一ふんの梅は梅の月、素民
 梅の影、さるる、三宜
 梅の影、さるる、竹堂
 梅の影、さるる、文貞
 梅の影、さるる、賛幸
 梅の影、さるる、喜逸
 梅の影、さるる、梅喜
 梅の影、さるる、抱山
 梅の影、さるる、望雨
 梅の影、さるる、箕山
 梅の影、さるる、竹掃美

素民
三宜
竹堂
文貞
賛幸
喜逸
梅喜
抱山
望雨
箕山
竹掃美

梅の影、さるる、桃李
 梅の影、さるる、みちよ
 梅の影、さるる、聴雨
 梅の影、さるる、友耕
 梅の影、さるる、寫春
 梅の影、さるる、静窓
 梅の影、さるる、坡橋
 梅の影、さるる、致誠
 梅の影、さるる、木名
 梅の影、さるる、白鶴
 梅の影、さるる、逸民
 梅の影、さるる、芝言
 梅の影、さるる、逸山

桃李
みちよ
聴雨
友耕
寫春
静窓
坡橋
致誠
木名
白鶴
逸民
芝言
逸山

南枝帯雪、試新粧、暗借天
 工冠衆、芳何願、當時飛燕
 色老株、歳々嫁、東皇
 不のく、さるる、月の影、を
 月影、さるる、を、を
 春和の人、はまれ、之、梅、の、を
 梅、さるる、を、を、を、を、を
 梅、さるる、を、を、を、を、を
 五音の淵、明、傳、を、を、を

雲照
東湖
柳水
文藻
無名
白居易
葛居
乙瓶
鳥曉
琴堂
案疑

梅の影、さるる、水也
 梅の影、さるる、理堂
 梅の影、さるる、琴雅
 梅の影、さるる、琴崇
 梅の影、さるる、好成
 梅の影、さるる、吉利
 梅の影、さるる、翠兒
 梅の影、さるる、文車
 梅の影、さるる、和親
 梅の影、さるる、知温
 梅の影、さるる、

水也
理堂
琴雅
琴崇
好成
吉利
翠兒
文車
和親
知温

| | | | | | | | | |
|--|--|---|--|--|---|--|--|---|
| 梅 山 <small>中ニテハ梅ノ咲キ見テ春ヲ</small> 知ト云心テト云也 | 梅 表白裏 <small>藜芳</small> 十二月ヨリ二月至 | 梅柳 撰 <small>モ柳モ整ヒテ</small> 何トナク長閑 <small>休也</small> | 梅 山 <small>中ニテハ梅ノ咲キ見テ春ヲ</small> 知ト云心テト云也 | 梅 表白裏 <small>藜芳</small> 十二月ヨリ二月至 | 梅柳 撰 <small>モ柳モ整ヒテ</small> 何トナク長閑 <small>休也</small> | 梅 山 <small>中ニテハ梅ノ咲キ見テ春ヲ</small> 知ト云心テト云也 | 梅 表白裏 <small>藜芳</small> 十二月ヨリ二月至 | 梅柳 撰 <small>モ柳モ整ヒテ</small> 何トナク長閑 <small>休也</small> |
|--|--|---|--|--|---|--|--|---|

| | | | | | | | | |
|--|--|---|--|--|---|--|--|---|
| 梅 山 <small>中ニテハ梅ノ咲キ見テ春ヲ</small> 知ト云心テト云也 | 梅 表白裏 <small>藜芳</small> 十二月ヨリ二月至 | 梅柳 撰 <small>モ柳モ整ヒテ</small> 何トナク長閑 <small>休也</small> | 梅 山 <small>中ニテハ梅ノ咲キ見テ春ヲ</small> 知ト云心テト云也 | 梅 表白裏 <small>藜芳</small> 十二月ヨリ二月至 | 梅柳 撰 <small>モ柳モ整ヒテ</small> 何トナク長閑 <small>休也</small> | 梅 山 <small>中ニテハ梅ノ咲キ見テ春ヲ</small> 知ト云心テト云也 | 梅 表白裏 <small>藜芳</small> 十二月ヨリ二月至 | 梅柳 撰 <small>モ柳モ整ヒテ</small> 何トナク長閑 <small>休也</small> |
|--|--|---|--|--|---|--|--|---|

是よりハ夕もまよふ物也 有隣
あまの宮の河原に物也 常足
をいりまをいりてや物也 乙帆
二つあきくをいりて物也 かつこ

宮ののり腫之月も物也 忍北
知きり川の水や物也 木主
田子畑もまよふ物也 許泉
まよふ物也 民水

井

井開

○ツミ井の井華水 包置る
井ヲ元日ヒラキツカヒ初ル也

井もや物也 鷹谷
井もや物也 雅高

葦索

此月画難チ戸上ニ懸シ
側ガチ符ヲ挿ハ百鬼畏ル

井もや物也 鷹谷
井もや物也 雅高

居篋

九日根西成郡今宮村アリ
夷尊廣田社臨幸御容相

居篋もや物也 鷹谷
居篋もや物也 雅高

見ニ

見ニ多故人見ルニ諸人閉
出聖日參詣ス是ヲ十日奉ト云

居篋もや物也 鷹谷
居篋もや物也 雅高

賭弓

射場殿ニ工イ覽ニ負ルハ
罰酒ヲ賜勝ル方ハ舞臺ヲ奏ス

のりや物也 志年
のりや物也 鷹谷

才

尉斗

天照大神イス川上ニ神代人
早登ニ作リト打鉈云

野大根 虎文曰西玉小大根
相列ノ波多野大根ニ

残氷

残雪

野大根 虎文曰西玉小大根
相列ノ波多野大根ニ

野里祭

北日濱口未行チサチ四人
神前ニ備置ルニ時置ル

野大根 虎文曰西玉小大根
相列ノ波多野大根ニ

大飾

松竹炭ワラ純
其外飾物ヲ云

野大根 虎文曰西玉小大根
相列ノ波多野大根ニ

鬼打木

太賀玉未門虫影木ニ年木
疵ヲ用鬼打木ニ云

野大根 虎文曰西玉小大根
相列ノ波多野大根ニ

御降

元日ニ降而雪ヲ云

野大根 虎文曰西玉小大根
相列ノ波多野大根ニ

降降やわの白の夕上り 其海
降降やわの夕上り 其海

野大根 虎文曰西玉小大根
相列ノ波多野大根ニ

降降やわの夕上り 其海
降降やわの夕上り 其海

野大根 虎文曰西玉小大根
相列ノ波多野大根ニ

門拜く西降を待りしト 逸老
 西降や去年の境を待りしト 一山
 西降や母を待りしト 芳子
 西降のたすきを待りしト 雪標

大井河濁酒
川越家子年酒アールトト酒ヲ
 十分ウチカ八九金ウチカ八十四川九
 十川ニスト入祝スルトシ

大服
点茶ノ名也忌服ノ字故不吉因テ
 極濃ト山柳ヲ茶碗ニ入漬テ合家飲

大芥謡 万春系ノ
余ニ云

御福迎 五日尾張熱田電神ハ諸人
参詣シ祝物ヲ買トスル也

節 元日

玉列ハ西降待りしト 松城
 西降や晴ハ地子の一草 迦孫
 西降とて雪を待りしト 吉利
 西降や母を待りしト 鶴歩
 西降や母を待りしト 松調
 西降や一柱を待りしト 東左

大服 点茶ノ名也忌服ノ字故不吉因テ
 元日ニ至ラ茶ヲ大福ト書テ祝

大芥謡 やすの不三の足者。終
家の守りしトトシテ新飲ル也 冥左

鬼追 十四日書写山草ハ
津ノ鬼神ヲモミタリ 冥和

元日や春のけしきすの隣ノガ 竹亭
 元日や春のけしきすの隣ノガ 音冰
 元日や春のけしきすの隣ノガ 林隣
 元日や春のけしきすの隣ノガ 開外
 元日や春のけしきすの隣ノガ 外司
 元日や春のけしきすの隣ノガ 井之
 元日や春のけしきすの隣ノガ 東阜
 元日や春のけしきすの隣ノガ 一團
 元日や春のけしきすの隣ノガ 山斗
 元日や春のけしきすの隣ノガ 大宇
 元日や春のけしきすの隣ノガ 雅仙
 元日や春のけしきすの隣ノガ 文貞

元日や春のけしきすの隣ノガ 井海
 元日や春のけしきすの隣ノガ 萬峯
 元日や春のけしきすの隣ノガ 思楽
 元日や春のけしきすの隣ノガ ト紫
 元日や春のけしきすの隣ノガ 鳳雅
 元日や春のけしきすの隣ノガ 芙蓉
 元日や春のけしきすの隣ノガ 雲秀
 元日や春のけしきすの隣ノガ 希雅
 元日や春のけしきすの隣ノガ 市山
 元日や春のけしきすの隣ノガ 梅職
 元日や春のけしきすの隣ノガ 雪湖
 元日や春のけしきすの隣ノガ 乙雨
 元日や春のけしきすの隣ノガ 其音
 元日や春のけしきすの隣ノガ 香芸

元日や春のけしきすの隣ノガ 好静
 元日や春のけしきすの隣ノガ 竹亭
 元日や春のけしきすの隣ノガ 音冰
 元日や春のけしきすの隣ノガ 林隣
 元日や春のけしきすの隣ノガ 開外
 元日や春のけしきすの隣ノガ 外司
 元日や春のけしきすの隣ノガ 井之
 元日や春のけしきすの隣ノガ 東阜
 元日や春のけしきすの隣ノガ 一團
 元日や春のけしきすの隣ノガ 山斗
 元日や春のけしきすの隣ノガ 大宇
 元日や春のけしきすの隣ノガ 雅仙
 元日や春のけしきすの隣ノガ 文貞

元日や正月の日のまゝの
元日や正月の日のまゝの
生者善也

生者善也

元日や正月の日のまゝの
元日や正月の日のまゝの

元日や正月の日のまゝの
元日や正月の日のまゝの

元日や正月の日のまゝの
元日や正月の日のまゝの

元日や正月の日のまゝの
元日や正月の日のまゝの

元朝 富貴のまゝ
茶俵

元朝のまゝの
元朝のまゝの

元三 三朝同義又
元節會 万々奏聞又
百官酒賜

元日不開 江戸の節
家アリ

元日や正月の日のまゝの
元日や正月の日のまゝの

元日や正月の日のまゝの
元日や正月の日のまゝの

元日や正月の日のまゝの
元日や正月の日のまゝの

元日や正月の日のまゝの
元日や正月の日のまゝの

元日や正月の日のまゝの
元日や正月の日のまゝの

元日や正月の日のまゝの
元日や正月の日のまゝの

元日や正月の日のまゝの
元日や正月の日のまゝの

元日や正月の日のまゝの
元日や正月の日のまゝの

國栖笛 國栖奏

公事根元日今ク久奏テ節ヲ嘆ク笛ヲ吹鳴スハ吉野ヨリ
年始ニ奏多ク去心ニ云々昔ヨリ栗菌羊真類ヲ上ル

画雞帖 井ノ部并索ニ見ス

喰積 蓬ニテ飾物ヲ人ニ喰ス
仙人ニテヤカク長壽ヲシマシム

申柿 飾ナニ用

申柿 飾ナニ用

元日や正月の日のまゝの
元日や正月の日のまゝの

元日や正月の日のまゝの
元日や正月の日のまゝの

傀儡師 不之 不之坊 又テゴト云西宮又泅路ヨリ多ク出ル

具足鏡開 元日カク久備シ餅ナニ
日カク久備シ食フ黄首ニ

具足鏡開 元日カク久備シ餅ナニ
日カク久備シ食フ黄首ニ

李庄

花燈

唐の世より始り上元ノ夜燈
燭ヲウチテ遊ニスルヲ云

鋤初

又鋤初ト吉日ヲ
エミト用ルカ

藏開
吉
エラ

桃の木の葉のつちりたる系
莖草
漢書に云くふらりたる系
琴堂

藪

藪立ノ意カサ菜ノ苗也
春の苗ヲ食フ夏ハ心ヲ食フ

草芽

草萌

薬子

御才奉人童子未嫁者ヲ求ム先此者
散テ進レ三ニ受降散ニ後ハ其カ

宿春

園と保つるもの花を初
如木

さうさうあかしの葉を初
雅高

あかしの葉を初
寒左

あかしの葉を初
古豊

あかしの葉を初
如木

あかしの葉を初
寒左

あかしの葉を初
梅雄
寄一

ヤ

藪入

紀事白正月十六日農工商各遊遊是日十六日遊
藪花の又曰元宿ノ誤也此日洛内外男女共兩親之家ニ或詣寺社

やふやふの葉のつちりたる系
葛草

やふやふの葉のつちりたる系
壽山

やふやふの葉のつちりたる系
東雲

やふやふの葉のつちりたる系
磯高

やふやふの葉のつちりたる系
筍苞

やふやふの葉のつちりたる系
かづみ

やふやふの葉のつちりたる系
雲秀

やふやふの葉のつちりたる系
如木

柳衣

素白裏藍色
正月ノ氣ニ應ス

やふやふの葉のつちりたる系
寒左

八皿酒

南ノ屋ニテ節振舞ハ初ハ八皿酒
古南ノ郎トハ八皿酒ハ名中ノ雀ニ下ノ舞例ノ御杖九百中ニ抱雀有己ニ

山崎會合初

十六日神職ノ長名人共輩當役ヲ有比夜御席列下役人
山崎會合初
山崎會合初
山崎會合初

山笑

即遊録曰春山笑如笑
如粧ノ山ノ冬山笑如笑
右内夏山笑如笑

マ

山笑ゆもくろくそくおれん 鶯谷
比水うつて山のそくろく 十花

松飾

松内

窓春

野城
夕

人らもせきそりし松の内 みあみ
心彩さるる肩おろさる 良古
おろさるる肩おろさる 雪登
おろさるる肩おろさる 柳翠
一ひらりしおれし松の内 琴和
おろさるる肩おろさる 帆花

松囃

自三日至五日 唱鼓或鼓舞
祝之終一ト松取長久之義

萬歳

又とらるるはらめりねん山 未明
山笑ゆもくろくの向松内 窓左
窓一ト松取のそくろく 夕
日の暮るる肩おろさる 雪登
おれし松の内 桃壽
おれし松の内 素國
おれし松の内 素先
おれし松の内 方朝
おれし松の内 松園
おれし松の内 山海
おれし松の内 萬歳

万才の松をさるる 滑川
万才の松をさるる 雪庵
万才の松をさるる 竹帝
万才の松をさるる 藤流
万才の松をさるる 梅崖
万才の松をさるる 梅染
万才の松をさるる 有陸
万才の松をさるる 抱山
万才の松をさるる 泉臺

万才の松をさるる 柳鼻
万才の松をさるる 連那
万才の松をさるる 平山
万才の松をさるる 勝貫
万才の松をさるる 素伯
万才の松をさるる 春城
万才の松をさるる 美明
万才の松をさるる 雪洲
万才の松をさるる 窓左
万才の松をさるる 窓左
万才の松をさるる 窓左

升

北國元旦鳥声聞テ
其年豊凶はト云

舞初

十七日禁中 能初ハ
非々舞来ノ初

一年のまつりおれし松の内 窓左
一年のまつりおれし松の内 窓左
一年のまつりおれし松の内 窓左

松花

松拍ハ百木ノ長故。字ハ公白。皮粗ク葉後ニ凋。若葉青キモ有是ヲ松ト云。又十回。花ヲ百年ニ一度花ガ会

マノ物モ似ル社ナリ松ノ也。我蝶

又モシシノ文新。御。松ノ也。未精

蘭五祝

十四日。蚕。祝スル家々。子マニ。マ。ワク。柳。或ハ。籠。ツケテ。祝ス。

万代精進

泉洲。五代村。八幡宮。氏子。大晦日。ハ。居。電。元日。ノ。七。日。精進。ケル。ヤ。

今朝春

雑旦

蹴鞠初

今朝春。雑旦。蹴鞠初。...

風葉

問柳

吐石

雪操

...

...

...

...

...

削懸

十四日。貴賤。氏。柳。ノ。枝。ヲ。色。々。削。掛。テ。サス。

懸想文賣

赤。大。棒。五。宗。五。テ。サ。縁。ノ。メ。ク。有。ベ。ト。云。祝。文。ヲ。ウル。也。

...

悠志

...

是則

...

如木

...

寒左

...

如風

...

香芸

嬰栗子若葉

九月。布。子。春。生。苗。為。蔬。食。

...

寒古

筆始

吉書ト

吹初

笛ノ類

...

...

喜速

舊年

船業初

...

寒左

ア

ケ

福葉

庭シクハ不津ナハラテ意

福葉のちまきハ清きナリ
福葉のちまきハ清きナリ
福葉のちまきハ清きナリ
福葉のちまきハ清きナリ

太著

雑談抄自著者折ハ落馬相云將軍義勝幼少治世元日著
折ハ落馬相云將軍義勝幼少治世元日著

太著のちまきハ清きナリ
太著のちまきハ清きナリ
太著のちまきハ清きナリ
太著のちまきハ清きナリ

太著のちまきハ清きナリ
太著のちまきハ清きナリ
太著のちまきハ清きナリ
太著のちまきハ清きナリ

振々

本草故蒙曰碌碌ハ田畝也形似ノ如シ六カドアリ
本草故蒙曰碌碌ハ田畝也形似ノ如シ六カドアリ

番卸

初寅又ハ二寅鞍馬辺往未側西山岸ニ高ク構ル菴ニ自其中著繩
初寅又ハ二寅鞍馬辺往未側西山岸ニ高ク構ル菴ニ自其中著繩

福寿州

元日草ニ器ハ人賭ハ其名
元日草ニ器ハ人賭ハ其名

福寿州のちまきハ清きナリ
福寿州のちまきハ清きナリ
福寿州のちまきハ清きナリ
福寿州のちまきハ清きナリ

福寿州のちまきハ清きナリ
福寿州のちまきハ清きナリ
福寿州のちまきハ清きナリ
福寿州のちまきハ清きナリ

衣裁く爪、海やうくあけ 水也
 衣の丸のあけぬらちや梅分州 琴洋
 向物、梅をわくや梅分州 知温
 人のあけぬらち梅分州 東牟
 衣、まきくのまきや梅分州 雪洲
 梅分州の通日まき梅分州 うめや
 一年のあけぬらち梅分州 寒左

落臺 落、姑尾
 款冬、花
土日著 三日著 新町、傾城ニケ日道中ノ衣裳也元日ハ忘
 ハカ仕著セ二日三日ハ大尽ニヨリテ梅ル也

服、くらのハ造きんたあけ 香芸
 三つまの松の松をわくのちう 斗大
 去年もん、あけぬらちまきのちう 正覚
 梅まのあけぬらちまきのちう 仙父
 梅ま、まきのあけぬらち 寒左

福滞 福鍋
 組事云若水ヲ煮テ云 是三用ニ鍋ナリト云 雜談抄ニ七日、粥ヲ
 云福トハ餅ノ異名也 古福引トテ餅ヲ二人ニテ引合フナリ 則餅粥也
 梅まの人のあけぬらち 香芸
 梅まのあけぬらち 而丘
 梅まのあけぬらちのあけぬらち 由波雄
 梅まのあけぬらちのあけぬらち 寒左

船玉祭 横州住吉、但ニ小社アリ常モ船中ニ崇メテ首殿ニ餅神酒
 其外祭奠ヲ整テ祭之 梅まの祭や梅ま、平クナリ 寒也

去年 今年 元日ヨリ年始ノ心也去年ト云ハ
 春也 今年ト計ハウニヨルシ

梅下の梅あけぬらち 其海
 こまの梅あけぬらち 等裁
 梅まのあけぬらち 芽山
 梅まのあけぬらち 對水
 梅まのあけぬらち 四勿
 梅まのあけぬらち 里三

小殿原 田作五万米、内
 武家ノ鉢
崑崙鉢
 梅林
糝 七種、
 モノ上世
子持鮒魚
 梅ま
 こまの梅あけぬらちのあけぬらち 寒左

小松引 子部子日松、此、我ス

川流、雪庵

梅雄

千葉

茶康

音爪

市隼

積翠

梅隣

木芽

為山

美相

貞山

盧橋

可都良

葉欣

たを女

うね女

寒左

喜山

鳳水

乙瓢

宇光

氷浮 氷流 氷ヒマ

氷ヒマ

夫芭

百鳥

先日

胡鬼板 小正月 氷解

双燕

大宇

寒湖

うね女

興福寺法起初

十六日朝寅刻衆徒ホラ真ヲ吹金堂ノ前ヨミ居后行

朝賀 朝拝

朝觀行幸 二日天子幸朝大右宮一南門ヨリ步行ス

金堂新始

十四日村民六時堂上リゴダセト

牛玉出

大吾ゴウメキ椽ヲ鳴牛ヲ呼ク也

テ

朝賀 万世 王道ノ

尊親母也奉食三献ヨリ御

朝拝 小一略ギ

海山一歩、ゆき竹等ノ

金堂新始 十一日 天三寺

寒左

手鞠 イソノ頃より始シカ知ス毛鞠ニ
准スル物ナレハ小ヤリキトス

田舎 イソノ頃より始シカ知ス毛鞠ニ
准スル物ナレハ小ヤリキトス

鑊炮打初 天穿 江東俗六日以紅線
繫煎餅置置基ニ

新年 目春 新玉 目春 明春

三符 錦玉 琴堂 好凡 至友 松湖

田柳 信安ヤツクニふるてニナリト
つきまらりて鞠をばらねト

寒左 信安ヤツクニふるてニナリト
つきまらりて鞠をばらねト

天狗宴 二日愛宕寺牛玉加持之客殿
列酒宴其林鹿豪也

明年 朝節 夕節ナド昔々
食事ヲ云

寒左 夕節ナド昔々
食事ヲ云

葭灰飛 歳時記曰立春ノ日取竹為管取葭為灰以葭字灰一実律
端曆者侯以八至灰飛而管通以應六律云々

白馬節會 七日ニ青馬ヲ見ル年中ノ
邪ヲ除ク白物善サテ

沫雪 日本記出雪脆弱ナル者
如水沫故ニ名

井海 鶯谷 孤竹 佳境

朝鴉 宵ニ雉子ノ鳴起ヲキ置テ
未明ニ行テ取スレ也

小豆粥祝 十五日粥ニ餅ヲ
入テ食シ祝フ也

縣子 十一日ヨリ十三日迄諸口食饅頭者ヲ
召テ官禄ヲ給フ 秋ハ寸古トス

文鳳 田留 雅仙 桂山 常暗

刺 正字未詳大ヤ蛤色
規ニ月シ味不美

寒左 正字未詳大ヤ蛤色
規ニ月シ味不美

愛染詣 元日

有馬温泉入初

二日行基仁西ノ西像ヲ築ニシテ山僧供奉而入初ノ式アル也

熱田踏歌神事 十日

同的射

十五日毎年六百家ノ社人的ヲイルトシ若クヤマ子有テ射旗スルハ家ヲ没収セラルトス

廿

三朝 尚書大傳曰三朝月朝日朝

三始 三朝日意

三元 三始日

三朝

三日

改テ又ニシテ一ノハノ外 香芸 撰於ヤウヤウ(由)ニテ白

此の歌も同ノハノ外ニテ 寒左

幸木 幸世電

幸木ハ 勝放ノ多ニテ北口デハ幸木ヲサ勝打ヨリ又門松ノ根ニ幸木ヲモ幸木也

幸世電ハワノ盆子ノ類カ

幸世電のオノケノケノケ 音吟 幸世電也古ケノケノケノケ

採燕 歳時記曰立春ノ日前燕ノ為燕戴笠帖ノ立春字ヲ於門ニ

左義長 爆竹

二物ニテ十五日於清涼殿ニ建燒音竹以披上書言於天ニハ日ニ同ノド下ヤトハスニ 田舎ニモ飾松等ヲヤク也

我蝶 一村の雪をよみよみよみよみ

我蝶

一村の雪をよみよみよみよみ

松崎

如鳳 犬ももも 仰る色知るとん

如鳳

犬ももも 仰る色知るとん

井清

壽山 村もももももももももも

壽山

村もももももももももも

蘭岫

登玉 犬もももももももももも

登玉

犬もももももももももも

正信

好文 犬もももももももももも

好文

犬もももももももももも

うめ

箕山 犬もももももももももも

箕山

犬もももももももももも

寒左

猿曳 犬もももももももももも

猿曳

犬もももももももももも

し三

有終 犬もももももももももも

有終

犬もももももももももも

葉古

葛峯 犬もももももももももも

葛峯

犬もももももももももも

伯高

盛車 犬もももももももももも

盛車

犬もももももももももも

うめ

寒左 犬もももももももももも

寒左

犬もももももももももも

寒左

良古 犬もももももももももも

良古

犬もももももももももも

里三

里三 犬もももももももももも

里三

犬もももももももももも

里三

氷力ハレノ度ニ寒

氷力ハレノ度ニ寒

氷力ハレノ度ニ寒

里三

馬の右の斜ぐさへなつて。白雅

返つてやゆゆの二日月 紫郊
一けんゆゆゆゆゆゆゆゆ

歳旦開

宗匠の家吉日ヲ撰之門人ヨリ
三ノ交々開テ律ヲ定ム

音皇新復報清明万里昇
平舞樂声若否阴阳造化 寒左

雑煮

里居

藪入ノヲ云
古人如修ノムナリ

善少後こじも後さあつて 水堂
さうさうさうさうさうさう

一とささささささささの白りり 清川
一とささささささささささ

さうさうさうさうさうさう 羽人
さうさうさうさうさうさう

山王宮神事能 六日

君う代は田の上のさうさうさう 寒左

西大寺茶盛

十六日寺僧席ヲ結茶碗ノ古
器用茶詣輩上下テ出ル

相馬妙見祭 民家元旦今日祭終迄
二十三日 解テ祭ス若菜ノスル

君春 御慶

さうさうさうさうさうさう 香芸
さうさうさうさうさうさう

キ

ねえへつてそまある片きりト 春城

今の入口もあつて片きりト 梅林

誰か解とまねのふゆふゆト 正柯

海山を隔てたゆふゆト 桃鳩

りふふふつてちつちつとまきまきト 蘭油

あふあふあきんのゆふゆト 帆柱

一口のあつてゆふゆゆト 桃壽

あゆあゆのゆふゆゆゆゆト 井海

著衣拾 三ノ日の中吉日ヲエラム

このゆふゆゆゆゆゆゆゆ 杏壽

毬打。袖一虫をカ聖疫神ト成テ人ヲ
服セテ故眼ヲ打テ准リトカヤ

ゆふゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 其残
あゆあゆゆゆゆゆゆゆゆ

吉書

書

吉書揚

爆ホノ火ニ
ホユラス也

ゆふゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 壽山

御忌

十八日ヨリ廿五日ヲ知恩院法然上人忌
云十月東福寺開山忌并當初ト

ゆふゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 得来
ゆふゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

義仲忌 廿日

ゆふゆゆゆゆゆゆゆゆゆ 寒左

工

弓始 七日甲陽軍鑑。約尾背懐。也。賽ハシ方弓始ヨリ

弓始 七日甲陽軍鑑。約尾背懐。也。賽ハシ方弓始ヨリ

湯殿始 年始沐浴スル云々。特物筭アリ。又一説藤ノ大吏待。御湯殿記。付テ

湯殿始 年始沐浴スル云々。特物筭アリ。又一説藤ノ大吏待。御湯殿記。付テ

雪半 雪間 雪類附 雪滴 雪消 雪汁

雪絶間 雪流 竹モ雪沖ル心也

雪絶間 雪流 竹モ雪沖ル心也

雪絶間 雪流 竹モ雪沖ル心也

メ

目刺 又三春也

面カリ 信則飯田アリ万歳猿也。類テ早春其処旧家未。面オカテ鏡倉御治

遊行札切 十六日一年札ヲ一日切一月内。扱ヲ押仕マフ此日押札礼

楪 親子草ト云カ子草ト云テ因今日

楪 親子草ト云カ子草ト云テ因今日

楪 親子草ト云カ子草ト云テ因今日

楪 親子草ト云カ子草ト云テ因今日

妙見寺石賣 九月十六日モ賣石

妙見寺石賣 九月十六日モ賣石

妙見寺石賣 九月十六日モ賣石

妙見寺石賣 九月十六日モ賣石

妙見寺石賣 九月十六日モ賣石

妙見寺石賣 九月十六日モ賣石

妙見寺石賣 九月十六日モ賣石

三物連歌 元日連催各席ヲ開ク凡於京師連歌長ヲ花ノ本ト号シ又宗匠ト云ハル者等宗匠ノ家集リ各一ノカス其一ヲ發

夕ニテ服ニ夕日ヲ采ト云此ニテ三物ト称ス併諾モ又發シカ

三物賣 昔ハ連催ノ三物ヲ扱ニスリ洛中大声ニテウケテシトト

御薪 百官悉ク薪ヲ宮内ノ省ニ納ム

御修法 七日ヨリ十四日マテ紫宸殿テ行末寺御室ヨリ御修行

御代春 庭雨 寒左

水祝 去年新ニ事ヲ迎名男ニ水ヲ掛ル也永祿頃松永臣挂ヲ合セヨリ始ル

新花 露山 精二 月并

水祝 去年新ニ事ヲ迎名男ニ水ヲ掛ル也永祿頃松永臣挂ヲ合セヨリ始ル

新花 露山 精二 月并

水祝 去年新ニ事ヲ迎名男ニ水ヲ掛ル也永祿頃松永臣挂ヲ合セヨリ始ル

新花 露山 精二 月并

水祝 去年新ニ事ヲ迎名男ニ水ヲ掛ル也永祿頃松永臣挂ヲ合セヨリ始ル

未開紅 答ノ中ヨリ 赤キ株ナリ

水入菜 水菜ニ京近辺ヨリ出シテトス 畦ノ間ハ水ヲ貯テ滋養ス

御結鎮神事 十三日 住吉御号云

元休めの一極陽ヤウ入ヤ 一ウヤ 吟ぬうららえとてとてやまゐる 寒左

箕面富 七日掛ミオ山弁天祭先天下前ニ大櫃穴ヲクテ千枝木札ニ參詣人名記シ箱ニ入運轉ノ后寺僧穴ヨリ錐ニテ突穿ニ當人富得トテ第一ト云

御齊會 八ヨリ十四日マテ大極殿ニテ寂勝經ヲ講セテ朝家祈申之 寒左

三保祭 十四ヨリ十六日マテ駿州三徳社筒粥ノ神事アリ大永二年矢火ニ 寒左

四方拜 元日寅ノ一剋天皇清涼殿ニテ四方ヲ拜シ玉ヲ 注連飾 シメ内ニ神社ハ平生有故シテ計テハ先トス

春盤 月令曰立春ノ日食ニ生菜ニ取迎新之義云々立春ノ日以春餅生菓ヲ相饋リ送リ号ニト 寒左

シ

シ

諸司奏

元日七曜御曆冰ノ様
腹赤ノ勢ヲ奉ル云

七曜御曆

元日節
会ニ上ル

淋気

新春気
云ベシ

齒朶

ホ長裏白月物一根ヲ
衆枝ニテ串シ故ニ鳳尾ト名
葉ハ葎ニ似表青裏白
四時不枯 齒ハヨハニ朶ハエ必枝ハ延ルモノ故ヨハヒソヒル義ト云

履新慶

古キヲ更テ新キヲムト云心
一ムトハ領スト云意

まづこゝろあつたゆゑのまゝ 菊苞
うゝものゝ 仔もろややを 庭雨

まゝのまゝをなすも 芥堂
まゝのまゝをなすも 仁里
川つゝまゝの子代あつたまゝ
おきまゝの 溜てすきりり 寒左

芝居讀初

江ノ三坐ノ役者不残麻上下ニテ舞臺ニ出ル
坐頭ノ役者ニカガリ狂言ノ趣向ヲトシナリ

紫蕪粥

神茶

鬼門ニ二神アリ一ウツルイト云
款批符へ出ス

さむぎの 夜も ぬれ 寒左

叙位

五日諸臣ノ年勞ヲ
奏而位ヲ叙ス

試筆

試毫
書格同

さむぎの 夜も ぬれ 寒左

如願

歳時記曰 商人アリ西湖ヲスル西湖君見ユ君問所須有以人教ラ曰但
如願ヲヒツヘシト君コレヲ許ス果メ一婢ヲ得タリ一ハ則其名也商人求ル
一所エハ悉ク能是ヲ致ス後正且ニ一晩ク起ルニヨリテ商人コレヲ打ハ走テ糞ハ
壞中ニ入テニハズ今人正且細繩ヲ以テ偶人ヲナシテ糞掃中ニ投テ令リト云

十四年越

十五日壬申節日九ハ
今日モ年トリスル

上元日

十五日 中元 七月 下元 十月

下萌

萌ハキサスト訓ス此月天氣
降リ地氣昇リ和月草木萌敷

新草

十六日櫻

イヨ松山城下ニマリテ
毎年今日登リ云

下萌や言むる石の日向より 依水
下萌や言むる石の日向より 桂山
下萌や言むる石の日向より 露白
下萌や言むる石の日向より 其山

さむぎの 夜も ぬれ 寒左
さむぎの 夜も ぬれ 寒左
さむぎの 夜も ぬれ 寒左
さむぎの 夜も ぬれ 寒左

白魚

鱸殘魚ト書武陽ノ小魚
大井如針一介千頭人以為壽

さむぎの 夜も ぬれ 寒左
さむぎの 夜も ぬれ 寒左
さむぎの 夜も ぬれ 寒左
さむぎの 夜も ぬれ 寒左

人日

東方朔古書曰歲後八日一為雞二狗三豕四羊五牛六馬七人八日為穀云又七日曰電辰以人為万物靈故曰人日以天地為万物父母

人の口や心やあつたつた

松鳩

素古

人の口のあつたつた

可秋

旭翁

人の口のあつたつた

木堂

家左

人の口のあつたつた

木高

家左

貼人於帳

人日糸ヲキリテ人ヲ造リ屏風ニ貼ル又相違ニ改テ心トシ

藤

草木ノ初ニ生ルコト云テ藤ノ葉ノ初ニ生ルニ云テ

家左

常陸常神事

十日草ヲ帯シテ我名書一男名書折返シテ徳祿宜結ハセシニ悪カレキハナリニ結ハレヨカレバハ掛帯ノカヲツカセト云

いそいそいそいそいそ

吾七

司甄

いそいそいそいそいそ

悠志

仁里

日賣許曾祭

十二日ニメコソ團子

結ハレハ好シク日のあつたつた

うま

毘沙門切徳經

元日古ハ寅時ニ大神人日花門外來テ訓誦ス

枚園御粥

十五日河内口神事ハ豆粥ヲ符ヲ試ニ作物豊凶ヲ知スルニ

節振舞

朝節ノ夕節 親戚 草會互ニ来往スル也

節小袖

十二月裁置正月着也 子室の着やあやや

家左

千壽万歳

大和口窪田著尾ノ西村ヨリ太夫兩坐所司ニ延ニ来テ舞妓ヲス五日禁裡未達始則万歳樂ヲ踏新節會ノ字ト云ルナリ

家左

柗酒。椒柏酒。柗觥

元日幸ル柗ハ星精也是ヲ服スハ身輕クヨウ走ラシム 柗ハ仙菜也 觥ハ器モナリ

家左

仙木

柗持柗授ト曰シ是ヲ門ニ立ハハ悪鬼ヲ除ク

柗 柗やうううううう

家左

スハリ鯛

元日ニ祝フテ食ス國ニヨリテ具列一ナラズ

一通くくくくくく

家左

七

ス

イ

めり月や折るのきさか一夜 可憐
とらふのほろもさ路二月に 寒左

凡中 紙書書東国六文云云上云云
イカト云

大んやとあかひかりのつるの風 雲層

足んやとさしりてさるの風 未明

何れもこのつるの風 芍哉

何れもこのつるの風 依水

凡中切てをきき入あふたり 一花

虎杖 其苗如竹筍小兒折莖剥皮食之味酸故名酸杖七月結花
ササキ 白く小シ松前産ハ高丈余ヲ如木

里也つるのつるのつるのつる 伯高

厚塔の煮たてをきき入あふたり 吾七

二つ三つやのつるのつる 凡中、有隣
くさるやとつるのつるのつる 乙三

切つるのつるのつるのつる 乙三

凡中切てをきき入あふたり 方明

足んやとさしりてさるの風 暉堂

何れもこのつるの風 勝貫

何れもこのつるの風 かつこ

凡中切てをきき入あふたり 伯高

虎杖やさしりてさるの風 梅光

厚塔の煮たてをきき入あふたり 寒左

ハ

銀杏花 昔白色ニ更開テ隨テ落故ニ
人見ニ結子百十粒ヲ熟ス

今八雁 今ムカクセンナド 今八雁ニト
思五有サマヤ云

初虹

初電 月令曰仲春初電ス秋少激輝
と雷亦云 飛ノ成光ニト云リ

初雷 今ムカクセンナド 今八雁ニト
思五有サマヤ云

花ヲ待 待花ニ 花ノ下ニ行スモバヤ味
スベシト思フ心也

畑打 畑カハスヒ

畑焼 田畑ヲ焼ハ作物ノ害ト成虫ノ根ヲタメ意ニ山ヲ焼ハ
草履ヲ生ラ

今八雁 今ムカクセンナド 今八雁ニト
思五有サマヤ云

初雷 今ムカクセンナド 今八雁ニト
思五有サマヤ云

初雷 今ムカクセンナド 今八雁ニト
思五有サマヤ云

初雷 今ムカクセンナド 今八雁ニト
思五有サマヤ云

初雷 今ムカクセンナド 今八雁ニト
思五有サマヤ云

初雷 今ムカクセンナド 今八雁ニト
思五有サマヤ云

初雷 今ムカクセンナド 今八雁ニト
思五有サマヤ云

木の枝をよみよみよのそとて御布

牛憲

御布や速のそと、月影をて

松並羅

初花 初櫻

洛陽人ハ以牡丹為花成都人ハ以海棠為花尊重之故也
横川曰櫻於我口ニ不曰櫻曰花云々 説文曰花祭也

初花のそとをよみよみよ

為山

初花のそとをよみよみよ

初花のそとをよみよみよ

為山

初花のそとをよみよみよ

初花のそとをよみよみよ

為山

初花のそとをよみよみよ

初花のそとをよみよみよ

為山

初花のそとをよみよみよ

初花のそとをよみよみよ

為山

初花のそとをよみよみよ

初花のそとをよみよみよ

為山

初花のそとをよみよみよ

初花のそとをよみよみよ

為山

初花のそとをよみよみよ

初花のそとをよみよみよ

為山

初花のそとをよみよみよ

初花のそとをよみよみよ

為山

初花のそとをよみよみよ

初花のそとをよみよみよ

為山

初花のそとをよみよみよ

秋若葉

馬蘭花

吟りせとらふ秋のあそび 楓一

果鳥

一白鳥白ヨ鳥ハ一物ヲ何鳥ト定ガレト白鳥ハ春日山ニヨリ氏恋
スルモノト云リ但シ定家モ不知之云リ推定之只美キ鳥カ未決之

争鹿

孕小雀

浮りてくるもやうな雀の 冥彦

蜂

同巢

蜂數百アリ一室一土一太黄一竹一赤羽一チカ一是也林木或
土中ニ作房為野一蜂ハハリサシ也トト通ヌ中略也

初午

桃史

初午や人のつらさ他日 蘭岫

初午

稻荷社山城口紀伊郡三座大山祇下倉祖魂中土祖神上元正帝御中當社
影向日初午當故至今用此日福詣り諸口祭日之ニヨルカ

初午芝居

諸芝居此夜イナリ明
神奉納ノ年狂言アリ

蘭岫

中和節 同酒

以朔日一為一... 於曲江合宴不唐ヨリ格ル春夜中和

暖九時故ニムク

利休忌

廿八日

龍登天

格物論... 春分ニ天登リ

萩焼原

野火焼タル跡ノ一原ナク

廿萩若葉

初生サク筭ノク漸ク葉

踊念仏

彼岸、中日天王寺念仏堂... 大和河内者トイヘト由緒不正不詳此法席

蕨

初。銚。一。手芽形如小兒拳... かつ

松蘿

あぐさぐさ... 松蘿

若紫

連供ニ若一ヲ春二月ニ花一ヲ秋ニ用ノ本草ホノ説ク三月花ヲ登クニ云リ

カ

節

鐘臈

故

カシ尋 百礎米ヲカミ玉フ也

植

鬘州

小兒取テ戯作リニ

櫛... 有終

生

白鳥 白鳥

二物共ニハ

帚雁

雁別リ名残 一春ハ北ニ秋ハ

雁風写

秋未寸木、枝ヲ唯テ羽、旁寸ハ海上落、其上ニ休又帚、寸其木餘、ハ

代... 見外

幽雅

未明

乃... 壽松

加石

拍舟

此... 童士

山峯

友耕

ハ... 鶯春

鶯春

鶯春

リハ一を多味と云ふは其の
 一梅子 梅子
 一葉依 葉依
 一古豊 古豊

蛙 初蛙 一黒名石峰丁上登蛙示
 一名科斗

其海 其海
 春湖 春湖
 音宜 音宜
 ト紫 ト紫
 雲秀 雲秀
 三岷 三岷
 嵐月 嵐月

カニ七種其の三を云ふは其の
 一寒湖 寒湖
 一うら女 うら女
 一寒左 寒左

才馬 才馬
 羽平岳 羽平岳
 金壽 金壽
 挑塙 挑塙
 九如 九如
 白左 白左
 臺西 臺西
 其一 其一
 雲光 雲光
 柳泉 柳泉

庭をわたり人を足すを初蟻
 初蟻 初蟻
 一得 一得
 かつて かつて

池塘生春草

池 池
 有所 有所
 琴和 琴和
 不明 不明
 雲海 雲海
 如春 如春
 貞幽 貞幽

夕やふと初蟻の初蟻
 初蟻 初蟻
 其山 其山
 新々 新々
 其則 其則
 帚雲 帚雲
 雲月 雲月

寒方 寒方
 寒湖 寒湖
 一寒左 一寒左

寄居虫 宿借貝 蛤鳥貝ホノ壳ノ間ニ寓居人形蛛ノク解ニ似テ色白其名ヨリ小シ貝
 カミナ正 壳而走 觸之結糸 出一名時

代中栗

龜鳴

未木集 川筋のまの甲中の
多國のゆきとハ連の 為家

蛸舟帰ル

○神

唐煎

六日住吉神供煎
和項クヲ云

鳥祭

熱田御田神社供餅ヲ鳥与テ
一食イテ神事始ル

開帳

出

神軍

九日住渡鹿伏今夜大凡物ハケシクヨク日快暗ス是ヲ神
軍ト云其跡ニ多ク矢ノ根落散アリ是ヲ拾テ守トス

春日祭

上申日

貝寄の貝寄風

十九日天王寺聖靈會日蔓珠
沙花ニ付ル貝ヲ住吉浦へ取行

此日右貝右浦へ寄ハ竜神ヨリ太
子ニ捧ルニト此日凡ヲノート云

見多クの貝寄風ノハ 里三
見多クヤ町へ入ルハカノ風 寒左

蓬橘

醫草^凡黄草^凡俗ニ蓬ノ字ヲ用
一切惡氣ヲ治ス灸治ハモクヤト云モモ草
界ナリ

梅ノ木の葉をよむる蓬ノハ 寒左

吉野餅配

朝日花供儀法行人御供
ヲ奉リ廣廷テ餅ヲ蒔ナリ

昨ヨリ花口ハハカレタリ記 寒左

夕

○節 田打 田鋸 田翻

うらむをえとる田打ト 茅裁
刈修する在や田打の時節 ノ左

鷹化為鳩 七十二候ノ一也

梅ももつらむのぬ田打ト 寒左
鷹化為鳩と云のウラヒト 市丹

○植

種井

種名

一粒ヲ種ト相物

種稼

種却也

居るをんじりし種名
有るをんじりし種名
有るをんじりし種名
有るをんじりし種名

年ノ末ニあるをんじりし種名
種名をさすの物や種名
種名をさすの物や種名
種名の物や種名

種芋

種賣

苺苗

桜芽

本漆木ニ似テハク高七八尺幹
本ヨリ刺多シ嫩葉食ス

竹竿や竹筒のちつくり
あふみのふれさるる半の程
嶺雄

かまむかふまの程
実左

大根花

大根の花や竹筒のちつくり
実左

蒲公英

俗ニ藤菜ト云名義未詳ク
シホノ名鼓車云ヨリ出タルカ
ワシクサト

たんのや竹筒のちつくり
連那

たんのや竹筒のちつくり
桃里

たんのや竹筒のちつくり
松雄

たんのや竹筒のちつくり
素静

たんのや竹筒のちつくり
実左

○生 田螺 田嬴 又田青

たんのや竹筒のちつくり
清園

たんのや竹筒のちつくり
沙山

たんのや竹筒のちつくり
茶依

たんのや竹筒のちつくり
杏壽

たんのや竹筒のちつくり
雲照

たんのや竹筒のちつくり
翠岳

たんのや竹筒のちつくり
芝蒼

川崎のふれさるる半の程
涼谷

川崎のふれさるる半の程
うや

梅隣
寥湖

山崎のふれさるる半の程
寥左

○神 太宰府祭 水五日

太子講
合列寺ニテ行ル村民未明ニ上
下ニテ韻終日無縁ニ普茶アリ

薪能
七日ヨリ十三日マテ奈良興福寺南大門ニアリ四座ノ内ニ坐休服
家ヨリ是ヲ下ムサ之能ト云春寒ニ入ル門前ニ火ヲ焚ク

列見
六位以下、藝者者ヲ櫻式ノ兵アリ
仁里

列見
川崎のふれさるる半の程
寥左

接木
接穂

接穂
川崎のふれさるる半の程
挂

接穂
接穂

接穂
川崎のふれさるる半の程
翠岳

接穂
接穂

接穂
川崎のふれさるる半の程
里雪

接穂
接穂

接穂
川崎のふれさるる半の程
九如

接... 琴和... 画邨... 寔左

葛若葉 土粟 寔左

燕同巢 春社未秋社去... 轉語也

井海... 茅裁... 文鳳... 乙兩... 松年... 田柳... 仙父... 好静... 蘭岫... 松洲... 教秋... 松声... 真石... 玉壺... 菊徑

喜逸... 木高... 双燕... 一得... 赤峯... 有我

子 涅槃會 涅槃像 一乃清浄不死不生之地一切修行者所依歸

洛東福寺子公像... 北殿司筆... 八間横四間世人所美... 尚貞別記

人... 風葉... 柏舟... 謝一... 清圃

ナ 苗代 寔左 可風

りあまたなるあり苗代田 月居
苗代や深しりききりん 不崩

苗代菜蔓

一小時ニ出ル一也大サ
小キ菜蔓ノ如シ

薺花

形如蒲公英結子三角三強極似
小兒其ニツ以テ瘻有音名ニ薺草

菜花

ふのむやまろくはまてま日根 其海
ふのむの不二まをいふか
ふのむのうままや依り 沙山
ふのむやまろくはまてま日根 葛峯
ふのむやまろくはまてま日根 依水
ふのむやまろくはまてま日根 風菜

苗代や花のむのむあろく 三秋
丹後とニまふるをり苗代田 貞幽

菜蔓熟油以り家の伸 寥々
花とまろくはまてま日根 うま女

ふのむやまろくはまてま日根 梅飄
ふのむやまろくはまてま日根 外月
ふのむやまろくはまてま日根 雪洲
ふのむやまろくはまてま日根 一陽
ふのむの梅ろくはまてま日根 保道
ふのむの上まろくはまてま日根 鳳洲
ふのむやまろくはまてま日根 梅岡
ふのむの風まろくはまてま日根 花雄

ふのむやまろくはまてま日根 來人
露橋 一ふのむやまろくはまてま日根 寒湖
其山 一ふのむやまろくはまてま日根 うま女
紫郊 一ふのむの中やまろくはまてま日根 寥々

茄子植

菜花化蝶

葎若葉

六月葎茂ル
処ニ秋ス

紫塵

早蕨ト云朗詠ニ紫塵類蕨人等
仙人の墓も持たる葎の由

蒸躑

比目魚也正表也並不行口腹下近
陰乾ニスルヲ救日ニ食フ

塩水ヲ以テ半熟セシメ取出シ
まろくはまてま日根のむのむ 宇辰

室生山會式

北二日

既出

シ西口ニハ冬馬ヲ遣ハズ其間ニ四足ニ湿ライタムニ
ヨリ春ニナリ野ニ放ツナリ

梅

一ハ正月ノ部ニ出スル
モシタル横題ヨリニ出ス

座論梅

花重キノ双々
浅紅色

越中梅

大花白帶赤白
似豊後梅

釋奠 文武天皇大宝元年二月丁巳始行ル先聖先師大哲像巨勢金園画
仲尼及七十二弟子祭 後漢明 西ノミ多香のりや、やれきまへり 寒多左

草若葉 十羽出テ優 草焼 山焼野 蜘蛛出ル
美尤サヤ 燒理也

枸杞 葉如柘櫚而小也食之食其幹作藥六七月開小红紫花一結子形微長
如棗核一其根名地骨 くらぬや片ハ号さき人の事 寒多左

能谷櫻 大和本草曰高尺三過スノ花サケ長四尺三過ス彼岸
櫻先多テ八重、好花櫻、先登之直実、始下略 閑帝祭 又五月
八月ニモ

山燒 山ヲヤケハ敬ヲ生ス 山蘭 山ヤケヤニ志ヲリ人ム 稻屋
山燒ヤケハ、冷々、氷の氣 連水 山ヤケヤニ志ヲリ人ム 稻屋

藪蕎麥 大和本草曰林中多生ス葉ハ草、ハニ莖丸シ淡紅色節毎葉上ニ
花一處ニ十余花アリマツテ紫ノ小兒花ヲ吸フ二月ニ花ニラク

松菜 救荒本草曰溼蓬下湿地生ス莖ヲ食、似葉蓬ニ似テ肥杜莖葉間
青子ヲ結フ徑テ細小ニ苗葉ヲトリ燻キ水ニ浸シ塩味ヲ去リ洗テ油塩ニ調シ食フ

松少毛鳥 菊蕪ノ類小鳥也ト下野、山中松ムシト云此者松ノ緑ヲ食フ故ト松ノ
末葉ニ集ル被ノ松ムシハ松ムシリ略ナラシ 年波草並月令博物考

馬刀 生海泥中長ニ寸大如指而頭開、
万天ハ左右也此貝左右ニ口有ク敏ヤ ちんちんや梅 一人まへ 寒多左

摩耶耶祭 棋角原郡相原村在山上一名仏母山天武、寸天竺法道仙人未
朝建之、以初午ニ為詣日 坊舎三百余棋角ヲ名殺トス

兼好忌 十五日 元政忌 十八日

二日灸 八月モ又同シ倍也日切アリト 冷内もあてわくニシラカ
ヤトヒ中華ノ味点泡額ニ天灸 那ノモも明ノ地ヤラカ 閑室

如ク、ウ、ア、フ、ニ、リ、カ、依、山、
あか、う、あ、つ、い、の、二、り、カ、逸、遊、 寒多湖

あか、う、あ、つ、い、の、二、り、カ、
あか、う、あ、つ、い、の、二、り、カ、

古巢

木上ニ在リ巢ト云穴ニ在リ巢ト云禽經曰羽長三百六十毛然四時一色合
五方一山禽ハ岩棲原鳥地也
去年のすハ羽ぬるのハ多ク

事始

針供養食六貫汁武汲俗竹竿先目或ヨクケ家々軒出又牛
唐芋大根赤豆木ノ六種ヲ煮汁ニ是ヲホト名ノ日針葉ヲ停ム

水葱摘

水葱在沢桔梗在水旁ニ生ス蒸食之堪チ花青白葉薄ノ
似茲地

出代

古ハ二月二日八月二日今ハ三月
五日十月十日

あ代のあきさきこやけり
あけやけさきさきものもろのあり
あ代のあきさきさきさき
あ代やけりさきさきさき

希雄
如洗
拍舟
環海
四勿

あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき

寥湖

あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき

あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき

寥左

蝶

異名 胡蝶 野城 採花使 粉白 蛺蝶 黄蝶 鳳車蝶 以上異名録ハ云凡種
類別也 蝶ハ乃胡蝶ニテ一名野城ニ又一名鳳子ト云アリ 大ニ如蝙蝠或黒或
赤或青斑是乃鳳車ニテ鬼車ト云 蝶ハ輕ク薄ク翅アリ 蝶ハニ美ニ蝶ハ
眉美ニ故胡蝶ト名ク 蝶ヲ為胡蝶ハ孟春ハ見又物ニ生梅花ニ不待近詩アリ
夫 蝶ハ乃胡蝶ト名ク 蝶ヲ為胡蝶ハ孟春ハ見又物ニ生梅花ニ不待近詩アリ
夫 蝶ハ乃胡蝶ト名ク 蝶ヲ為胡蝶ハ孟春ハ見又物ニ生梅花ニ不待近詩アリ

あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき

あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき

あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき

あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき

あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき

あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき

あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき

あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき

あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき

あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき
あ代やけりさきさきさき

山ハ松林にりて海ニ至
 云姓
 其成
 柳泉
 完國
 馬上
 常暗
 雅仙
 乙三

静窓
 涼合
 秀高
 雲海
 新産
 松調
 尾正
 寒左

天王寺踊念佛 カニ中

ア

○植

麻蒔

上世ハ麻仁ヲ多敷トス食麻トアリケハ不食

蘆角

芦ノ錐。芳芽ト又角組トナクテ食ス如キ

胡葱

葱ニ似テ瘦タリアサハヤセト通ス瘦タルキト云心也

温種

物種ヲ蒔前夜糠ニテアタルト云

○生

蟻出ル

藍蒔

人家蒔園ニ作畦種ニ至二三月ニ生苗

敦盛草

存向ムカウテス一存向ムカウテスヤウ種ト云キ

七音亡時珍曰

以羽鳴其声亡々々

市月

志扇

其海

寒左

英雉

市月

さしとて赤やういぢの事 亀井
多岐とふいそハ蛇のそんぢり 盛車

○食

入易く物教まじの味ありん 家左
霰酒初霜酒實止 世月

○植

大角豆蒔。サイ多マ 虎杖ニ
り部ナリ

○生

轉 請馬轉也

野の事あふさくくじりん 嘯堂
竹やまもさるのゆりけ 齋室

○釋

去佛 二月別処説

西行忌 十音 左金吾藤原康清次男儀清
鳥羽院上北面徳大寺家彼官

タリ弓馬弁道ノ達人保延三年薨歿ス
大皇坊四位号ノ建久九年二月十五日卒

嵯峨柱松明 清涼寺寂迦堂大炬一基
十音日 諸人踊躍ヲ歡迎意也

わ周ハ何の物ぞ一四ナリらん 木音
くらら 嘸ハつらん而り思 仁里
何もさハ草のむを西ナキ うち女
去一佛まじりてさそととそと

キ

植 菊若葉

をくのゑふ一かのみるらん 家左

生 雉子

雉飛如矢一往而隨故字从矢。義解曰「ハヒキシ上
略其飛」ヒキシの漢、呂太后名雉高祖改雉為野雞其

實ハ雞類也。月令曰孟冬雉入大水
為蜃。異名山梁又スカ子鳥貫之。記リ

きくわやあれるのさ、カチ原 雲外
谷倉乃ゆさもまなき一のナ うち女
ゆらやまきりう上秋のきくわ 雪庵

きくわやあれるのさ、カチ原 雲外
毛物や甲らちるはなまきん 為山

をくわやまきりう上秋のきくわ 乙良
なまきりう上秋のきくわ 乙冊

部の手をひききくわ 龜得
あつとつあつとつあつとつあつとつ 思衆

のつもの草、山ゆやきの声 以上
ゆらやまきりう上秋のきくわ 為文

きくわやあれるのさ、カチ原 雲外
きくわやあれるのさ、カチ原 雲外

ゆらやまきりう上秋のきくわ 田柳
ゆらやまきりう上秋のきくわ 仙父

ゆらやまきりう上秋のきくわ 仙父
ゆらやまきりう上秋のきくわ 仙父

ゆらやまきりう上秋のきくわ 仙父
ゆらやまきりう上秋のきくわ 仙父

ゆらやまきりう上秋のきくわ 仙父
ゆらやまきりう上秋のきくわ 仙父

ゆらやまきりう上秋のきくわ 仙父
ゆらやまきりう上秋のきくわ 仙父

多岐よきと下りの音を聴れり
 伊トク
 一志
 文鳳
 月規
 松韻
 史考
 玉壺
 交水
 盛車
 南經
 和親
 一可
 有找

其山
 其山
 料量
 令哉
 其山
 露海
 琴堂
 一瓜
 寥湖
 寥左

北行雁 扇一ト同カ部ニ出

神 清盛忌 四日六八寺

行基参 二日根河辺郡昆陽村昆陽寺一姓、高志氏泉州大島郡人百濟口
 王統天智七年薙深ス学瑜伽論於新羅慧基声光聞四方

北野御忌 三坐中村殿菅三三桶子
 道実公

吉祥院八講 東寺西南アリ菅家
 氏寺祖父清公建之

雪果 涅槃ノ頃降ニ雪然ナク云也

季御讀經 春秋二季百僧ヲ南殿ニ
 請シ大般若經ヲヨマシム

水口祭 種却セシ田ノ水口ハ幣ヲ立早
 損水トホナキヤウニ祓ル也

百合根 味軟堪食

翠簾錢 初午伏見稻荷社ニス留
 又ルサヤ錢ヲ受テ吉事ヲ祓也

其海
 狸三
 文考

水取 二月 状実忠遊浪花、津見園如木、津浪表一辺見、十二面観音像二鉢アリ、大銅像之暖、如八層、帝聞之於東大寺、建骨索院、安置之、病者アリ、水ヲ飲ム、公聖

水間祭 初午日 泉州童谷山水間寺、於初願行基天平年中、開闢ス、本尊正観音基四十二歳、建之、此日詣ル者、八四十二、尼難ヲ消スト云

○節 時正 彼岸、中日云二八、夜長短ナク 同シ時、正ニ義也 蓮葉の丸も、可く、竹多ク 家左

社日 立春ヨリ、庚子、戌、白ヲ春社、云、唐ハ、神ヲ祭也、土六万物ヲ養、五穀ヲ生、不春ハ、農事、ヨカラ、ナク、秋ハ、其恩徳ヲ報ル心也

社翁雨 社日ニ降、雨ナク、社翁ハ、古キ水ヲ合、以セテ故ニ 治顰酒 社日ニ吞酒ヲ云、石林詩話出、多、糲、酒、大、小、杯、不、抱、一、杯、吞、心

柴菓雙燕花中屋百轉如言能慰心人
老少誰辭一杯酒社公聲諭又回春 家左

鹿角落 街波傳曰鹿生テ三年、其角自墮 凡ちちるも、た、角 琴堂

○神 芝能 薪能、名、部、出ス 鹿走 十五日春日、テ、今春、金剛法性三坐、ヨリ、年、豫、役、人、ノ、請、ハ、公、羽、奏、スル、也

時宗踊念佛 彼岸ニ季、京御影堂、テ、一遍上人自作、弥陀、像、ノ、掛、是、ヲ、本、尊、ト、ス、中、世、以、未、携、尼、製、扇、賣、四、方、寺、ヲ、号、新、善、光、寺、踊、観、是、踊、躍、意

聖靈會 北一日二日四天王寺太子鳳章聖靈院ヨリ、至、六時、堂、エ、シ、キ、ナリ、筒花ヲ舞臺、四方、建ル

積塔 十六日盲人清聚院ニ集リ、先孝天皇、御子、雨夜、御子、為、一、ノ、修、ス、盲神、像、ヲ、掛、テ、平家、ヲ、説、又、石、ツ、之、帝、ニ、祭、ニ、故、名、皇、子、盲、故、惣、盲人

○節 一夜正月 一日 百日男歸 酒造家

彼岸 諸僧等、誦、法、詠、而、仏、ニ、供、ス、ル、ヒ、カ、ン、會、ト、云、是、ハ、八、夜、均、キ、ヲ、兩、岸、均、キ、ニ、比、ノ、云、ト、也、此、岸、ヨリ、煩、悩、流、ヲ、渡、リ、彼、岸、ニ、至、ル

ひゆのふく笑ふれぬ 依山
 好虫の程をきき 十葉
 多しはし牌 南海
 山うと、ひなをさるひとん 盛車

むやま言海 崔葉
 母ゆれも 好風
 おくの餅 菅菖
 とくも 寒左

○植 一重櫻 春分後開花彼
 岸櫻 十日計オシ

一重ハスな一重のさくら 乙良
 原と杉の葉 ひろい うち女
 村中の松をみ ひろい 寒左

彼岸櫻 小白單葉春分後一開
 先餘花 一名小サキ

原と杉の葉 ひろい うち女
 村中の松をみ ひろい 寒左

○生 引鶴 雀經曰雀、陽鳥而遊陰
 年變止、十六百年ヲ形定、體尚潔、故白、志聞干天

七、十六年大變、百六十
 形定、體尚潔、故白、志聞干天

故頭赤シ 食水故隊長 軋干前 故後指短シ 棲陸 故足高ノ尾凋ニ 翔雲ニ 故毛
 豊ニ肉疎ニ天壽不可量故 無青黄ニ色 木土気内ニ養フ故ニ表外ニ依洲渚
 止り不集林木ニ蓋羽族ノ宗長仙ノ騏
 騏ニ雀鴨類冬勅多集春ハ引歸也

らきとのやうな鳥のつら 蕉月
 川有やゆえんはらき草のよ 星亥

川有の名はるせり 磯刈者 稻屋
 引有やゆえんはらき草のよ 伯菊

川有やゆえんはらき草のよ うち女
 川有やゆえんはらき草のよ 寒左

引鴨 引雀義リ同シ

引雀のつらき鳥のつら うち女
 引雀のつらき鳥のつら 寒左

○神 氷上祭 十三日防州

彦山祭 十五日

餅花煎 十五日京師俗正月用此餅
 花ヲ貯置子ハ會煎供物トス

諸子魚 湖水ノ小魚也長三寸ヲ限ス
 カロコニ光アリテ美シ味脂多シ

湖水佳品内ニ江西坂本モコ川ト云アリ
 此魚尤多シ故名トス

餅散千中ニ錢ヲ包タルモノニツアリ

餅蒔 一日伊賀山田郡十戸村仏先寺
 是ヲマツニ錢ノ有ニ當リ人心福得トス

餅散千中ニ錢ヲ包タルモノニツアリ

狗背 犬蕨庄苗尖テ細ク碎ケ青色一尺許
 無花其根黒色長三四寸岐多
 如大背骨一

せんま心やあうも物山まや 寒左羽

献生子朔日

招魂祭

上申河内牧田社首、御勅使下向、由日記アリ、
吉田、使者立、神官藤枝、セウコサ、ハヤ、神殿、タクミ

浅間祭廿二日

駿安部郡、延喜帝勅願、ラジ郡本宮、ウ、ウ、奉、祚、新宮、今、式、ロ、一、ノ、子
マ祭、信州、是、二月、祭、ナ、四月、八日、
山口、ラ、ヒ、ラ、祭、ト、ス

杉菜

春月、開花、如、土、筆、嫩、時、可、食
別、莖、葉、ヲ、生、ス、似、杉、故、名、漢、名、未、詳

西瓜蒔

注、不及

末黑芒

少、末、名、キ、云、ス、工、名、略、ト
○芒、芽

小雀隱

木、多、麻、雀、隱、程、伸、シ、又、鳥、隱、
鳥、名、雀、隱、程、伸、シ、又、鳥、隱、
白、文

雀子 巢立鳥

雀、ノ、隱、也、雀、隱、程、伸、シ、又、鳥、隱、
一、腹、ハ、地、を、不、在、行、雀、ノ、子
鳥、ノ、文、の、形、也、鳥、ノ、子、
鳥、ノ、子、の、形、也、雀、隱、程、伸、シ、又、鳥、隱、
左、文字
千、本
琴、和
寒、左

梅実の可きく、く、雀の子、一等裁
竹の香、竹の、く、雀の子、隨着
竹の、く、雀の子、雀の子、文雄
鳥、ノ、子、の、形、也、雀、隱、程、伸、シ、又、鳥、隱、
松、韻

雀、ノ、隱、也、雀、隱、程、伸、シ、又、鳥、隱、
一、腹、ハ、地、を、不、在、行、雀、ノ、子
鳥、ノ、文、の、形、也、鳥、ノ、子、
鳥、ノ、子、の、形、也、雀、隱、程、伸、シ、又、鳥、隱、
左、文字
千、本
琴、和
寒、左

三月

季春

凡、末、月、ヲ、曰、ニ
季、子、月、

桐月

緑秀

禊月

上、巳、ノ、被、ス、ル
月、ナ、レ、ハ、カ、ク、云

花老

惠風

五陽

一、長、而、一、陰
消、ス、ト、云

浴沂

暮陽

竹秋

八月、為、春、三、月、
為、秋、蘭、秋、ハ、七、月

春末

春杪春ノ終

姑洗

姑、故、之、洗、ハ、新、之、
氣、終、去、故、就、新、

清明

万物、至、此、潔、齊、
而、一、也

穀雨

三、月、中、雨、生、百、穀
清、淨、明、潔、也

殿春

春、ノ、殿、
ト、云、心

櫻月

花見月

春借月

蕙覓月

花津月

暮春

彌生

陽、氣、此、ニ、至、テ、萌、出、名、草、モ、此、月、ニ、萌、生、盛、
ナ、レ、ハ、イ、ヤ、オ、ト、月、ト、云、
ナ、略、ヲ、ヤ、ヨ、ヒ、ト、ハ、云、也

| | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 護外 | 山月 | 素仙 | 千葉 | 洗耳 | 蜂齋 | 如山 | 素國 |
| 一圃 | 好柳 | 志道 | 静泉 | 寒湖 | うめ | うめ | うめ |

護外 山月 素仙 千葉 洗耳 蜂齋 如山 素國
 一圃 好柳 志道 静泉 寒湖 山 山 山
 山 山 山 山 山 山 山 山

○生

イカゴ

カマス子

○神

石山祭

朝日ヨリ三日マテ 獅子舞競馬アリ

一乘寺祭

五日也洛北八大天王 社競馬アリト云

石清水臨時祭

又南祭ト云 中吉日 天慶五年始ル

鳥城

水イカノ奥形 水イカ細長ノ甲ウシ 水イカハコ也 奥形ハイカ最良也

隠元忌

三日黄檗

口

稻荷御出

此御神ニノ年ノ日ニ御出四月ニ卯日ニ還御故ニ 諺ニウケト御出ウケト御帰ト云七條南御旅所入

池上子部

十九日 ヨリ北ハヨロテ

爐塞

炬燵塞ノ十月ヨリ塞ヲ凌ク 為ニ三月ヨリ晦日ヲサヤ止ム

○節 八十八夜

立春初ヨリ當ル 共ニ無霜故 霜別

うめ 三芳

春湊

春ノ集テ皆成ト云心 湊ノ字アリト訓ス

春限

春惜 春深シ 春名残

うめ 寒左

○植

花

古昔ハ梅ニ定シ 詩ニ一枝開天下皆春ト云 詩ニ多ク桃李ヲサテ云 中世ヨリ櫻ト云 花ト云 蕉翁曰我家ハ花ヲ非スカクニアラサルニモ非ズ

ハ

味しものもみかほり
味しものもみかほり
味しものもみかほり
味しものもみかほり
味しものもみかほり
味しものもみかほり
味しものもみかほり
味しものもみかほり
味しものもみかほり
味しものもみかほり

瓜茶
金記
推帆
ノ左
枕文
以上
藤株
柳枝
外月
菊露
桃李

おぼろの月
おぼろの月
おぼろの月
おぼろの月
おぼろの月
おぼろの月
おぼろの月
おぼろの月
おぼろの月
おぼろの月

雪洲
佳境
正寛
千葉
松年
竜溪
志國
松洲
惺池
吉里
花堂

おのちの月
おのちの月
おのちの月
おのちの月
おのちの月
おのちの月
おのちの月
おのちの月
おのちの月
おのちの月

残秋
菊寺
如山
休徳
素茂
文鳳
清園
民水
蕉月
牛歩
吐石
松韻

おのちの月
おのちの月
おのちの月
おのちの月
おのちの月
おのちの月
おのちの月
おのちの月
おのちの月
おのちの月

玉光
閑外
可権
金壽
里雪
三壺
交水
文松
文燕
松山
一鼎
蓮舟

花の香や空の雲を花と
 花の香や空の雲を花と
 花の香や空の雲を花と
 花の香や空の雲を花と
 花の香や空の雲を花と
 花の香や空の雲を花と
 花の香や空の雲を花と
 花の香や空の雲を花と
 花の香や空の雲を花と
 花の香や空の雲を花と

かつみ
 鳥曉
 三登
 乙帆
 花雄

一杯一杯又一杯
 一杯一杯又一杯
 一杯一杯又一杯
 一杯一杯又一杯
 一杯一杯又一杯
 一杯一杯又一杯
 一杯一杯又一杯
 一杯一杯又一杯
 一杯一杯又一杯
 一杯一杯又一杯

不明
 月杵
 和親
 如木
 如春
 竹亭
 負幽
 伏見
 青山
 春城
 龜遊

を多うに花をのりて
 を多うに花をのりて
 を多うに花をのりて
 を多うに花をのりて
 を多うに花をのりて
 を多うに花をのりて
 を多うに花をのりて
 を多うに花をのりて
 を多うに花をのりて
 を多うに花をのりて

松溪
 正柯
 蘆橋
 露白
 画郎
 掃雲
 蓮葉
 松淵
 寄一
 史節
 友甫
 三々

一杯一杯又一杯
 一杯一杯又一杯
 一杯一杯又一杯
 一杯一杯又一杯
 一杯一杯又一杯
 一杯一杯又一杯
 一杯一杯又一杯
 一杯一杯又一杯
 一杯一杯又一杯
 一杯一杯又一杯

推吟
 寥方
 寥湖
 寥左
 二蝶
 寥左

馬蘭

葉長二三尺幅三分花六弁淡紫小萼蒲似五月結子作
角子赤色根長人取之刷去

令法

葉澁川ワジ似葉先尖本枝高飢民葉採蒸食之歲内レソト云
甲信飛驒也但書ハビヤブ云。我飛驒ヲ旅行スル此口ニテ平年食物ニス

母子草

鼠菊、采菊、草母、慈草、仙草、草ナド云花黄ニシテ出テハ子ヲ結カ上
巳日用之鳥園子近葉ノ葉用 初ノ年ハ人モむつり母ノ科 旭云

生

蛭母

蛤

棲住吉浦沙千凡三ヨリ七ヨリ見物輩泥中蛤
取テ方言ニシル云踏踏ノ或ハ棒先ニテ突トル也

神

般若寺文珠會

初瀬千部經

三ヨリ十一日マテ

鎮花祭

十四日神祇官ニテ行ル祭秋井神ニ後疫病大口主神祀海童姫神
ニ疫神ヲ司ルニ依テ也

春蘭花

弱脚蘭花ハラニ似テ廣シ淺黄色香氣アリ葉長三尺若似
山中多シ冬ヲヘテ凋マズ

木

木瓜花

木形如漆春未開花深紅色實如木瓜一醋而可食則木瓜名取
此義又信州佐野野邊其ハ文種花紅色花間久是草木云云地ナシ云

杜鵑巢

不能登巢鳥、スツ窺テ
借リニ生印ト云 傳おふむくくくくわけるのむ うかむ
冷ゆるあつたりやわけるのむ 寒左

雞合

朱雀院天慶元年三月四日
謂雞十未畜有之清涼殿前テ
梅葉

式鳥巢

高木上ニアリ木小條ヲ組入ラス
ヲ作シ式鳥、類麻丸而回翔ス
梅葉

鳥子

尔雅白鳥、子也須其母而食之謂之雛能自啜食謂之雛
字林白哺而活者曰雛雛雀、ルニ自啄者曰雛雛雉、ルイ也

鳥啼

雲入鳥、同聲ニ雀一鳴及
諸鳥、古巢ニ啼去、心也

重三

月三日ニ三成ハカク云 九月ニ重五
九月ニ重九ニナ同意
重三ヤシムイテケケノカ
重三ヤシムイテケケノカ

散花

中々のやましくちり松 為文
 掉させハうつもけりやちり松 萬葉
 ちり松もあつてちり松 一山
 かろくちり松のちり松 潭洲
 ちり松もあつてちり松 風葉
 ちり松のちり松 松圃
 ちり松のちり松 玄星
 ちり松のちり松 雲階
 ちり松のちり松 喜途

長春

青莖長蔓 花深紅
 俗名 荊牡丹云

夕陽やちり松のちり松 聽雨
 光陰あつてちり松
 きのちり松のちり松 孤支
 ちり松のちり松 ちり松
 ちり松のちり松 ちり松
 ちり松のちり松 ちり松
 ちり松のちり松 ちり松
 ちり松のちり松 ちり松
 ちり松のちり松 ちり松
 ちり松のちり松 ちり松

沈丁花

香木 高三三尺 葉白 又楊梅似
 介紫し如沈丁花

結實四時不凋 冬春開花 成簇 長三四
 朔のちり松のちり松 寒左

丁子草

葉ハ柳ニ似 中堅筋 微白
 花ハ丁子ニ似 淡紫赤色云

一日退屋 ちり松のちり松 田柳
 ちり松のちり松 ちり松 樵叟

茶摘

春中始 嫩葉生 蒸焙 苦水
 去り 是末 蒸焙 十八夜前後 蒸焙

試し ちり松のちり松 美柚
 ちり松のちり松 ちり松 寒左

同試

其香氣キキ 又嗅テ氣味ノ
 善悪ヲ察スル也

試し ちり松のちり松 寒左
 ちり松のちり松 ちり松

鏡人

唐時三月 蒸餅ト云アリ
 日本雜人形ノ類ナルベシ

木槿花 木槿花 似テ粉紅花子 亦
 木槿花 木槿花 似テ粉紅花子 亦

紅毛渡

三月ハ海上靜成也

ちり松のちり松 ちり松 寒左
 ちり松のちり松 ちり松

忘霜

別霜 凡五春 霜ノ下ニ必霜
 アリ 其原霜ナシト云

ちり松のちり松 ちり松 如風
 ちり松のちり松 ちり松 連水

ちり松のちり松 ちり松 龜石
 ちり松のちり松 ちり松 各壽

ちり松のちり松 ちり松 里空
 ちり松のちり松 ちり松

ワ

ナ

リ

静窓
季山
大宇
梵吉

若菰 江湖沃地中三生三月白草
生竹筍ノ是若菰也

若鮎 小鮎奴ト子鮎ハ春生ト夏長ト秋衰ト冬死ト故曰年矣ト三月間初在
江海間大サニ寸只黒目ニル

十憶
筍苞
主布
潮雨
煮月
梅溪

美芳
うま
寒左

寒左

音氷

明卯
乙三
栗古
紫野
古豊

力

休堂
嵐月

寒食 去冬至百五日人有疾風甚西
禁烟火一熟物而食之此日忌日出介子推力故事又曰清明節ノ

前二日ヲ云此日ヨリ清明ニ至唐ニハ先
祖墓所ヲ掃除祭ヲス十月朔日今日
多合や月の星ノ代ノミヤ
多合や月の星ノ代ノミヤ
多合や月の星ノ代ノミヤ

杏粥 寒食ニ大麥粥ヲ造杏仁ヲ碎キ酪
シ餠ヲ以テ是ニソク

海棠 眠花ト云曰美者有
唐明皇嘗テ大真妃ヲ召マ妃被酒新起帝曰海棠眠未足耳因名

露山
露海

うま

寒左

司瓢
雪潮
うま

寒左

寒左

寒左

高麗菊 春為事

カザン草

櫻ノ異名ニカサ

樺櫻

山サシ類古今

蠶

宋子カサカサト云 亦馬子竟同氣故有龍馬而蚕モ又亦馬同氣 故蚕モ有龍頭馬頭者日本雄略天皇六年詔后妃大ニ弘ム

鳥子

鳳洲
月居
李莊
風水
葉古
琴堂

好風
和親
寥湖
寥左
寥左

蛙メカ時

メカ時蛙ハ日ヲ借ト云心夜寝 眠ヲ借無人目借ヨシ云ル説也

寥左

呼子鳥

古今三鳥其一也様々習アレ只深山ニ鳴テ物淋シキ鳥ト云心得テ云ム 三鳥実名治定セガ治定セ又ヲ以テ口傳トスルト

見ハタリ治定タル器重ハ人ニテモ尚傳授玉ヒ 事成及又雲上ト思檢ベキト云リ

琴堂
寥左

蓬餅

蓬餅苗ヲ未煮テ蒸餅合セツ 三日必コ餅ヲツキ賀祝トス

寥左

吉野會式

子守勝手社スアリ又曰花頃ヲスベテ花工式ト古未ヨリ云傳ルナカニ山守侍 日救ホナク花式云迄花見トス

豎桶改

十六日大坂油屋例年新 造ノ油桶油尺ヲ改ム

竹花

竹秋月始出

桂

桃花節

上巳ニ古武ト云也桃花水ニ 流シテ吞テ三百余歳及云

寥左

鷹巢

巢ヲ取テ育ル家 者曰巢鷹

鷹志飼

松韻

連翹

大小二種アリ葉狭ク長シ如榆莖 赤色枝間花黄小連ハ似小ナニ

泉囊

ツ
蚕豆花

宗因忌 廿八日

躑躅 羊此花ヲ食ハシテ死ス故ニ
シカ云一説羊ニ至春ニ此花ノ
赤キ蒼ヲ見テ母乳ト思フハシテ膝ヲ折
吞之故ニシカ云○山拓播_ルノ杜鵑花_ル

只雪
山嶺雄
休亭

一衣 面蕨芳 西務島 白紫、散
裏香打 品アリ

山多ハ山の侍ツ〜
竹ノスニ香台のさつ〜
うめ

平戸 琉球 瑠璃 枝連 垂ル
トモ云 紫、小花ニ

盆永山頭躑躅濃三光寺
裡講時鐘春山処々行可
好一月者花列裁峯

對馬風蘭 此花外種類多シ
ツジ此花種類多シ

沓左
沓左
沓左

茅花 本草曰白茅葉ヲ似リ故ニ多ク春生茅布地如針俗曰茅針
亦可食其莖益小兒夏開白花茸々然ノ至秋枯ル

沓左
沓左
沓左

十
夏近 夏待 夏隣
油桃 花常ノ桃より小シ
知事ニ至ニ至桃

坪井八幡宮祭 三日
沓左
沓左
沓左

茄子苗

沓左
沓左
沓左

梨花 白花雪加ニ大ハ秋名曰ハ中自ラ時也ニ三月凡者ハ不矣故ニ
アト云心ニ山梨山林有之花ニ子ニ小シ草生葉梨 便セナシ花ノ名也ニ
タニタニタニハ洞むう洞むう 有終
小一ツおんをををのを 美芳

沓左
沓左
沓左

梨花 小白花小レ青レ夏芽生ズ我
志ニ月花ニ出スハ不詳

沓左
沓左
沓左

十毛之 此葉子種小多クトバニ刺トタル人付ハハニトナシ

中山寺無縁經 十六日

麥鵲 鵲ハ不木也 不謂安寧自効ハ食飽日三四日由麥長キ取之者云 一ト名ク又可見秋ハ轉リシニ鳴チニ云 雌チアイト云

〇植 萍初生 瓜苗 梅若菜

〇生 鶉集 鶉草中ニ似雀巢 秘ニ其卵 初等羅鶉ト云カ 伏等早秋云 浮鱈 在廣島アシカ海 能地浦ホ名西

梅若菜 十五日梅柳山隅田院木母寺昔言臣少將 若君此也チ早也見元 元年三月十九日此日大念佛アリ若君野人 歎未士塚ニ柳ヲ植

討死御書九日ナシ

野遊 殘花 春中久ノ後云見題 餘花ト云ハ自是枝末

上真筈 若鮎河水ニ流ルニ追下ヤカ 入云

御身裁 十九日 二水記曰永正元年三月十九日 嵯峨ノ秋也御身裁參詣スト云々 此起リ 此堂建立人七日參詣中ニ本尊言ニカカ父今生チ苗ニ轉レ此堂ニ

材木ヲ引牛ト成ル琳瑯善チナシ果ヲ得ヤムヘト急此牛チニ淨テ堂ノ側ゾキ 父思ナシテ養ヒカハ三月十九日終リシ 果ヲ得ト云々為牛衣ヲ以テ末ヲ裁チ亦稱 櫻葉チ終シ牛着露丸傾腦不淨瘡心

胡桃花 白黄ニ長シ 熊谷草

檳榔花 花五年於紅也

初チカク物ニ入ルニナシ

九輪草

旌節草又七重草也昔花標草
似大車輪故云枝出

雲入鳥

扇丁也

もろもろ入やる鳥の形
文雄

栗子

蚕也
カ部出

栗摘

汲鮎

木朝食鮎鮎長時小細テトルニ夫長細ヲ持繰ノ上ニ云ニク小若ヲ相曳テ
小石川ナキハ則鮎石声散下ニテ夫下流ニ立テ扇細ヲ持テ夫ノ至ルヲ待ニ

夫は之隨ニ相依テ結合ニ加タス曰成す
鮎細細ニ半細ヲ上テ小枝以テ汲之

形の信のありとち今州の併
か林女
町二の海一とや州のり
堀池

つらつらとあゆむ九輪草
あめがたをりてくつらん
家左

もろもろ入やる人
宇光

もろもろ入やる人
家左

栗はもろもろの形の唐人
家左

草餅

蓮餅母子餅ホト同

めつらとをの思ふも細居るの併
月規
もろもろやねるもむらり自
竹陰

欠

MISSING

マ

眉作花

其刺也アノ部ニ出ス

ケ

元已

上巳ト同シノ部ニ

獸ノム

華鬘草

花モ、色赤ク、兩耳翻
元即花弁ノ下ニツク白

古事記ニ中間藍色ノ魚ツリ表裏相
對シ高シ起葉似牡丹ニ花淡紫也

あつたけふふふ八つたけふふ
寒彦

五彩花

蓮花草ニ碎米芥花
花ウズ紫又白アリ田ニ種ニ
鋪カ如シカヘシ肥ナス口坊ク田ハマク也○七種ノウケナリ

鞆鞆

寒食白立一ノ為草寒明皇呼テ為半仙戲
以テ輕越ヲ習フシ○本日千秋祝壽詞ニ后詔ヲ為テ秋ヤ云リ 和名ユサハリ

やうやくやの月をゆねるきき 梅溪
あつたけふふふ八つたけふふ 乙三
あつたけふふ八つたけふふ 菅原

藤

松見草ニ二季草ニ 藤波一カ枝一度一樹一細シカクナリ

此のきりやちりたるもれやむ 其海
 人帯くふちのを 千徳
 ありきりたるもれやむのを 我蝶
 ありきりたるもれやむのを 蕉月
 ありきりたるもれやむのを 芙蓉
 ありきりたるもれやむのを 池雪
 ありきりたるもれやむのを 素月
 ありきりたるもれやむのを 斗大
 ありきりたるもれやむのを 清貧
 ありきりたるもれやむのを 春旭
 ありきりたるもれやむのを 幽孫
 ありきりたるもれやむのを 柳園

柳のありたるもれやむのを 雲清
 ありきりたるもれやむのを 一得
 ありきりたるもれやむのを 琴和
 ありきりたるもれやむのを 負幽
 ありきりたるもれやむのを 孤主
 ありきりたるもれやむのを 普我
 ありきりたるもれやむのを 新々
 ありきりたるもれやむのを 美芳
 ありきりたるもれやむのを 寒湖
 ありきりたるもれやむのを 寒左
 ありきりたるもれやむのを 寒左

冬桃 花野也

コ

小弓引

揚弓類武家用ニ非ス 堂上弄物以送ニ永登

高三四尺梅ニ似テ小弓白ニ又帯

小梅花

三才園会曰庭梅正字未詳 黄色花落チ葉生ス秋ニ長シ

高三四尺梅ニ似テ小弓白ニ又帯

糴花

高三四尺花如蓬 花頭ク 花ニテ葉生ス秋ニ長シ 又雪柳

高三四尺梅ニ似テ小弓白ニ又帯

辛夷

異名木筆、迎春格物論ニ依能 正月花ニ葉生ス秋ニ長シ

高三四尺梅ニ似テ小弓白ニ又帯

小粉團花

高四五尺花長シ葉似山 次自天ニ半寸許ニテモ如

高三四尺梅ニ似テ小弓白ニ又帯

御燈

三日天子北平ヲ祭玉也昔ハ北山ニ 壇ヲツキ七々薪ヲ七々焚ク祭トヤ

後白河法皇御忌

テ

手始

朔日又ハ三日 初テム茶ヲ

高三四尺梅ニ似テ小弓白ニ又帯

十

○節

三月尽

人声ふらふのさや三月尽 登玉
花舟のりてさるる夕月

○植

櫻

花ハ端山ヨリ咲テ奥山ニ至リ葉ハオ山ノ添テ端山ニ至リ其冬
暖ニヨリテ遠近ノ差別アレバ所感非有先後凡ノ初開ク

モノ皆單葉山ノ彼岸ノ花ノ類ニ熊谷ノハ八重ノ初ニ咲モノ其木五尺週
八寸木ノ○雜談抄曰中華ニハ日本ノ種ニ櫻桃七葉形色似テ木甚チ高
花ノ通ニカニヤ実ヲ見實ノ寝廟ニ
スノ玉知太夫モ味ニスル由經史見分

兒熊谷ノ

以上八ニ
月ノ気也

八重ノ普賢ノ揚貴妃ノ奈良ノ虎尾ノ

鞍馬雲珠ノ

塩竈ノ

伊勢ノ

江戸ノ

樺ノ

浅黄ノ大ノ
以上ハ
三月尽

皆夫々記アレモ
略定

左近ノ

南殿ノ

櫻人居ノ

田ノ

深山ノ又
一ノ戸ノ
先ノ

○櫻ノ三月ノ初開ノ月ノ花舟ノ

舟ノ入レテスルノ花舟ノ

舟ノ入レテスルノ花舟ノ 舟海
舟ノ入レテスルノ花舟ノ 有終

舟ノ入レテスルノ花舟ノ 沙山

舟ノ入レテスルノ花舟ノ ト紫

舟ノ入レテスルノ花舟ノ 我蝶

舟ノ入レテスルノ花舟ノ 香壽
舟ノ入レテスルノ花舟ノ 武栗
舟ノ入レテスルノ花舟ノ 花友
舟ノ入レテスルノ花舟ノ 孤立
舟ノ入レテスルノ花舟ノ 玉川

好音

如風

其銘

久年

素逸

菟雪

支身

可轉

竹長

花童

得哉

梅崖

柳花の清川人河津敷文照
 結影を移し月影の移り一山
 雪山
 藤林
 十花
 里梅
 千菓
 好許
 尚哉
 精二
 可秋
 其葉
 月居
 仙父

けくろの月ハ橋ニおれりカ
 ソハらあ。昔芳とてうらまら
 多とふとてうらまら
 人す、友とてあまら
 口ハあふ、まを梅のまら
 抱てあふ、あつあつとて
 くれ夜の勢ひく移り
 碎さるる花ハ移り
 清川まてたてり
 葉ののまらとて
 折てあふ、あまら
 まらとてあまら
 花と

一花もわらうふ口まら
 不意とわらう口まら
 山里也梅もさくや柴垣
 ありきの影をそわ梅
 梅の影をそわ梅
 山うけや一本もまら
 ありや梅もこれの笑手
 影をそわ梅
 東四明ノ跡ヲ尋テ
 礎ハ杖よこしてまら
 志梅ちねのまら
 まらぬたよ梅の影

山をこえ橋ののまら
 けくろの月ハ橋ニおれり
 りとあふの影をそわ梅
 葉ののまらとて
 折てあふ、あまら
 まらとてあまら
 花と

三宜
 臺雨
 桃裁
 在儀
 賞春
 小桃
 沢雄
 一得
 秀苗
 花雄
 是則
 好成

吉利
 千春
 伏亀
 静泉
 寛方
 家湖
 二蝶
 家左

梅守
梅守
梅守

櫻草
九輪草類抽莖開花淡紫
紫色或白如梅花

五味子花
及
及

早挑
花單也
三月大根

○生
櫻鯛
赤鯛也櫻花
時取之故名

櫻鯪
江州湖中有形アス似信州鯪
云赤身似相根ア赤腹云正字未詳

櫻貝
小貝ノ海ニサラセタルニ一花ニ
似スル也

三月大根
花淡紫
採葉食

三月大根
花淡紫
採葉食

三月大根
花淡紫
採葉食

櫻鯛
常州櫻川ニアリ形ハ鮫似
小ニ似白身一異也

櫻鯛
常州櫻川ニアリ形ハ鮫似
小ニ似白身一異也

櫻鯛
常州櫻川ニアリ形ハ鮫似
小ニ似白身一異也

櫻鯛
常州櫻川ニアリ形ハ鮫似
小ニ似白身一異也

キ

○衣
櫻衣
表白裏蒲桃深
又表白裏赤

早蕨衣

○神
野社競馬
山王神伐
二月八日

嵯峨大念佛
自九日至十五日融
通念仏余流ニ于

時主人堂上ニ於テ能優テテ是諸人
夢ヲ覚サントスルニ世ニ集云後中多虎

時主人堂上ニ於テ能優テテ是諸人
夢ヲ覚サントスルニ世ニ集云後中多虎

○節
曲水
流觴巴字蓋有觴ヲ雅ス
似此會周毎前ヨリ始リ久ク絶クニ
魏文帝又興高卑ヲ

流觴巴字蓋有觴ヲ雅ス
似此會周毎前ヨリ始リ久ク絶クニ
魏文帝又興高卑ヲ

云入善惡運速ニヨリテ臣下オテ試セ也
羽ハ鸚鵡杯テ海中貝脊骨実用

云入善惡運速ニヨリテ臣下オテ試セ也
羽ハ鸚鵡杯テ海中貝脊骨実用

○植
金鳳花
黄ニ似河骨花ニ水草而毒
草ニ高尺ヨ一葉三尖也

利茶
嗅茶茶詩
テテ部出ス

金盞花
長春菊ト云言ハ久ク耐フ也夏月結子
在莖内宛如吹瓊

長春菊ト云言ハ久ク耐フ也夏月結子
在莖内宛如吹瓊

菊裁替

菊經曰清明穀雨間苗二寸五分許栽之菊積命

林中菊栽三日

さしきもやいぶ枝もまじり
さしきもやいぶ枝もまじり
さしきもやいぶ枝もまじり
さしきもやいぶ枝もまじり
さしきもやいぶ枝もまじり
さしきもやいぶ枝もまじり
さしきもやいぶ枝もまじり
さしきもやいぶ枝もまじり

井海 極親 松年 蜂齋 田房 仙寺 贊華 李山

かきんたのるちのりやもあま
きしねかきんたのるちのり
あまのりやもあまのり
あまのりやもあまのり
あまのりやもあまのり
あまのりやもあまのり
あまのりやもあまのり
あまのりやもあまのり

一井 方明 東古 寒羽 寒方 寒湖 寒左

生

孤隊

南部五、辺七、辺ア、海平、蜚、禰、加、モ、立、テ、人、馬、ノ
音アリ是ヲ俗舌ニ孤、也、為、テ、テ、一、ト、云

神

經供養

掃下、舞、天、王、寺、太、子
朔日 堂、北、經、堂、未、刻、舞、奉、テ、リ

義經祭二十一日

食

清盛塩辛漬

イソガ島天神御連子ニ鯛十枚用其腸ヲ塩辛
漬ル此塩辛清盛公頃ヨリ有リトテ名レトム

行春

油花占

因茲日洛陽上巳日婦女芥花ヲ以テ油ニ点シ祝ハ是ヲ
水上ニソカ若電鳳花舟ノ狀ヲテテハ吉トス

カキヤもふるむるのハ 潮雨

雨路山

カキヤもふるむるのハ 秀應

琴洋

カキヤもふるむるのハ 寒左

寒左

カキヤもふるむるのハ

寒左

櫻桃

大近文花白似梅葉山尖如鼓結子一枚枚十犬如
鹿櫻桃夏月熟ス如珊瑚可愛取備食一名麥茨

菖荷竹

和三日菖葉及竹竹
嫩守室可食俗菖荷竹

水落花

三月生葉大於荷葉一面青背紫莖葉皆有刺莖長丈余至中也有
穴有絲物刺刺皮食花葉 かなき中城の屋の傍 寒左

御酒古草 三日内裡ニテ御酒ハ
入ラレ、概ナリ

壬生念佛 十四日、北四日、山城本尊地
藏堂前、踊念仏、狂言、念

巳日後 後漢人此日三ツ彦、不骨俗
以爲大忌、至今、後、外、説、略

大峰入 熊野ヨリ、葛城、大峰入吉野ハ出是ヲ噴ノ一ト云、吉野山ヨリ、大峰、後、入
熊野ニ出是ヲ逆ノ一ト云、七月、季也

御影供 北一日、弘法大師、一ノ一ノ、承和二年三月今日入定、真言家、寺院大師、
像ヲ安置、修之

潮干 紀事曰、三月三日潮水大ニ乾ク、泉州堺浦、特甚シ、諸人競来、蛤蜊ヲ
拾、又小魚ヲ取、浴人モ又赴ク、住吉、双于奈、土佐海ニテハ、硯ヲトル

上巳 執商、上ハ初ノ初、巳、日ヲ以テ節
日トス、後世三ノ日ニ定リ、総、時也

石楠花 花数ナ集、赤色、似大
寸余、生石間、白陽、地、高、丈、ハ

欖花 細白花、結子、青、白色、如天蓼
子、折枝、供、仏、葉、似、紅

春菊 花似菊、故名、莖葉ヲ食、ノ脆ク美シ、然、氏、賞、花
不食、又、一度、刈、タ、葉、ヲ、生、シ、六、月、花、サ、ク、又、美、ナリ

洗耳

水尾祭 九日丹波桑田郡愛宕山、側、所、祭、清和天皇

御影供 年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、

潮干 御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、

上巳 御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、

石楠花 御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、

欖花 御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、

春菊 御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、

静泉 御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、

画押 御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、

桂山 御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、

寒湖 御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、

寒左 御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、

寒左 御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、

寒左 御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、

寒左 御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、
御影供、年入ヤ、老、死、終、乃、の、者、

新菜摘 后妃齋戒親東郷躬
葉禁帯サ初委事

辰氣樓

白酒 三日和俗為節物長雜奈サ
レ尺句作ヨリテ三春ニ度ヘキ也

老 寥羽
涼谷

十三參 十三日浴西サ法輪コクヤサ
薩男サ十二歳兒童參詣サ

尚齒會 高寺人集
詩元遊
白藤衣

工

化偷草 本名山ウバラ海老根正書葉書ヨ以初出撥呂
花黄色高五六寸上右黒皮裏莖以撥皮

ヒ

雛遊 雛飾 雛祭

先代旧事記曰敏達天皇二年正月
侍従奉勸雛像太子正自取雛形

分其男サ像一定内儀外儀而見男女別一位之
靜并以古礼ノ紀事曰今日良賤製然偶人
雛遊弄受者元贖物義及效具也
高寺人集以初出撥呂
花黄色高五六寸上右黒皮裏莖以撥皮
雛遊弄受者元贖物義及效具也

雛の事より雛遊
逸民
雲海
琴松
船吉
旭高

乳母の事と雛を新の陰儀
油川
御月
雲遊
素衣
女皇
玉光
櫻餅
一團
桃李
又曰雛ハ鳥子物也愛ラレテ故名サ
小サ弄ハ寺内教也

雛の事より雛遊
伯高
正信
うぢや
寒左
寒羽

秋花 莢及餅 雛供ス

引残鶴

二月引三帝在
三月引三帝在也

同鴨 同上

川所、鴨、光、ひんり

金花

人麿忌

十八日人丸、振高、神妙、
独旅、全問、今日并會下

沖と、東院の、の、人丸忌
初末の、初も、りり、人丸忌

市月
寒左

比良祭

十五日江州、ラ村神典三基
山王十善師、飛梅、天神、神社祭

山、の、移、を、の、の、あ、り、い

寒左

桃花

異名洞中仙、仙木、引客、祖、桃、三輪、助、橋、三、十、代、草、西王母、園、三、十、年、一、度、花
サキ、と、ん、桃、ア、リ、云、松、江、舟、志、日、午、集、大、社、者、名、緯、桃、深、紅、排、白、碧、

舟、移、も、も、夕、の、の、の、の、

車海

初、の、の、の、の、の、の、

未明

舟、移、も、も、夕、の、の、の、の、

有終

初、の、の、の、の、の、の、

田柳

舟、移、も、も、夕、の、の、の、の、

幽雅

初、の、の、の、の、の、の、

蘭亭

舟、移、も、も、夕、の、の、の、の、

幽雅

初、の、の、の、の、の、の、

環海

舟、移、も、も、夕、の、の、の、の、

幽雅

初、の、の、の、の、の、の、

環海

舟、移、も、も、夕、の、の、の、の、

幽雅

初、の、の、の、の、の、の、

環海

舟、移、も、も、夕、の、の、の、の、

三秋

初、の、の、の、の、の、の、

秀若

舟、移、も、も、夕、の、の、の、の、

明卯

初、の、の、の、の、の、の、

如春

舟、移、も、も、夕、の、の、の、の、

此木

初、の、の、の、の、の、の、

静泉

舟、移、も、も、夕、の、の、の、の、

素潔

初、の、の、の、の、の、の、

雪洲

舟、移、も、も、夕、の、の、の、の、

蒼古

初、の、の、の、の、の、の、

うま

舟、移、も、も、夕、の、の、の、の、

文芭

初、の、の、の、の、の、の、

春心

舟、移、も、も、夕、の、の、の、の、

尤儀

初、の、の、の、の、の、の、

不可量

舟、移、も、も、夕、の、の、の、の、

如柳

初、の、の、の、の、の、の、

後桃

舟、移、も、も、夕、の、の、の、の、

文藻

初、の、の、の、の、の、の、

後桃

挑柳草

三日播州、明石、町家軒、
多端、午、ア、ノ、ツ、カ、カ、

挑酒

三日酒、漬、桃花、
除百疾、益、顔、色、ト、云、

木蓮花

葉似、辛夷、花似、蓮花、
開、六、日、即、謝、ス、不、結、実、

竹の葉のよかりハを「木」環海

山邊を流る水を「竹」
下ろしの年号は「竹」
寒左

仙臺秋

甘藷トニ草也草モ花ヲ
似花黄ト如大豆花嫩可食

その名の仙臺花の如し
寒左

仙臺馬市

三月上旬ヨリ四月中旬マテハセラヒ口分寺等ニテ有初江
府馬寮ヨリ官使夫テ御物ヲエラフ次ニ口馬ヲエラフ也

芥花

寒左

青精飯

寒食日揚桐ノ葉ヲ飯
染ル色青ヨリ有先宜陽元

先帝會

赤間関アミタキニ行ル安徳帝ヲ祭
柏荷町遊女十三重ニ遊屋ニ軒ヨリ参詣

泉涌寺開山忌

八日或ハ九日浴ノ東山アリ
中興ノ開山俊茂ノ忌

善導忌

京都ニ修行終南山善導大師淨業
和尙寂ス六十九歳當天武世

千本念佛

嵯峨疫病之遺意ニ引接寺ニモマ
堂ニアリフケシ櫻開花ヲ期トス

建久二年入宋建曆元年
徳朝嘉祿三年逝ス六十二

八

硯取

三日潮十二土佐口西寺ヲ御サ考海
底ヨリ硯石ヲ取出ス其日西寺僧出テ經

一竹をとり少許やけり
寒左

董

本ニ角力取云純紫ヲ殿馬ト云小兒簪者
処ヲ相交テ戯トス然ニ角力取云華別也云

その名の出し花ありそり
百鷗

ゆふのののののののののの

岸海

水色

ゆふのののののののののの

雪山

鳥曉

ゆふのののののののののの

志羊

琴崇

ゆふのののののののののの

三秋

寒相

ゆふのののののののののの

民水

寒方

ゆふのののののののののの

素民

寒湖

ゆふのののののののののの

三宜

うあ

ゆふのののののののののの

臺雨

寒左

李花 花野五出 白色 似桃似小味 酸故名

杉花 董衣

蕨材花 花一花 紫花甚碎細花 羅葉出海島ス分口出故

花... 寒左

黒土直 十二日浴双林寺芭蕉支考 碑黒土直ニ能語アリ

住吉大掌會 角田川大念佛 ウツ部梅 若菜詠

須磨御夜 源氏スハ左比守青朝曾旨 三船入形立後其七後陰

馬... 寒左

諏訪社獻鹿頭 酉日例年近郷ヨリ自然鹿頭七十五集其中兩耳 一サケル頭一首トハ是春日耳割鹿トテ不思ギ一ナリ

柳籠 長三寸形狭長シ柳葉ニ似テ 潔白群遊ス土俗ハ亦云処アリ

柳... 寒左

加追ヤ

世のまゝ... 寒左

三春

遊女歌舞妓 赤間関船荷町茶屋ニナリ木戸打れ人ヨモス 遊女大客付テ惣揚ノカキナリ

遊糸 遊子道進第云野馬塵埃也虫物以息吹者也希逸註曰野馬遊糸也 水気也杜詩落花遊糸白日許 カケロノ糸ニテ一物ニ而糸ニハ異名也

春風 東彦 山嶺雄 不明 三吟

春風 音宜

春風 音宜

ハ

イ

新花
 山峯
 雲外
 錦洞
 間柳
 其音
 蘿慶
 未明
 洗耳
 孤立
 一花
 三芳
 莫然

可凡
 三友
 翠岳
 一難
 得未
 史凡
 春栄
 諸言
 如春
 平山
 立吟

遊風
 可賀
 連雲
 寒羽
 寒病
 うま

春月

遊風
 可賀
 連雲
 寒羽
 寒病
 うま

其海
 素仙
 風外
 好者

文鳳
 松雄
 徐念
 以上
 鶴栖

一つしき重きそひさやまの月 九如
 ちかきそひさやまの月 給屋
 ちかきそひさやまの月 沢雅
 ちかきの月 可事
 う山のちかきそひさやまの月 明和
 う山のちかきそひさやまの月 松園
 う山のちかきそひさやまの月 文凡
 う山のちかきそひさやまの月 牛園
 う山のちかきそひさやまの月 大宇
 う山のちかきそひさやまの月 水盟
 う山のちかきそひさやまの月 喜遠
 價千金を春宵 雅志
 花影のちかきそひさやまの月 雲照
 ちかきそひさやまの月

ちかきそひさやまの月 拍山
 ちかきそひさやまの月 藤雨
 ちかきそひさやまの月 ちかき
 ちかきそひさやまの月 菅春
 ちかきそひさやまの月 静家
 ちかきそひさやまの月 泉家
 ちかきそひさやまの月 坂橋
 ちかきそひさやまの月 鳥院
 ちかきそひさやまの月 琴洋
 ちかきそひさやまの月 志道
 ちかきそひさやまの月 水亭
 ちかきそひさやまの月 寺山

宵

ささき 林のちかきそひさやまの月 寒湖
 ささき 水のちかきそひさやまの月 うみ
 春のちかきそひさやまの月 痺堂
 春のちかきそひさやまの月 謝一
 春のちかきそひさやまの月 井之
 春のちかきそひさやまの月 孤一
 春のちかきそひさやまの月 其海
 春のちかきそひさやまの月 久井
 春のちかきそひさやまの月 怪池
 春のちかきそひさやまの月 水亭

春のちかきそひさやまの月 寒左
 春のちかきそひさやまの月 桃李
 春のちかきそひさやまの月 木高
 春のちかきそひさやまの月 雪北
 春のちかきそひさやまの月 やるか
 春のちかきそひさやまの月 田彦
 春のちかきそひさやまの月 水盟
 春のちかきそひさやまの月 春堂
 春のちかきそひさやまの月 勝負
 春のちかきそひさやまの月 寒湖
 春のちかきそひさやまの月 寒左

春日

春雨

不二層の雨の降るの
 裾にゆるる雨の降るの
 おもひの雨の降るの
 山川の雨を降るの
 おもひの雨の降るの
 おもひの雨の降るの
 おもひの雨の降るの
 おもひの雨の降るの

ふたつの雨の降るの
 おもひの雨の降るの
 おもひの雨の降るの
 おもひの雨の降るの
 おもひの雨の降るの
 おもひの雨の降るの
 おもひの雨の降るの
 おもひの雨の降るの
 おもひの雨の降るの

古今の雨の降るの
 おもひの雨の降るの
 おもひの雨の降るの
 おもひの雨の降るの
 おもひの雨の降るの
 おもひの雨の降るの
 おもひの雨の降るの
 おもひの雨の降るの

雲海
 素伯
 魚花
 露白
 梅喜
 豊雨
 左儀
 暗雲
 春染
 木高
 柳末
 琴岫
 三都屋
 下
 文章

おもひの雨の降るの
 おもひの雨の降るの
 おもひの雨の降るの
 おもひの雨の降るの
 おもひの雨の降るの
 おもひの雨の降るの
 おもひの雨の降るの
 おもひの雨の降るの
 おもひの雨の降るの

雲海
 素伯
 魚花
 露白
 梅喜
 豊雨
 左儀
 暗雲
 春染
 木高
 柳末
 琴岫
 三都屋
 下
 文章

雲海
 素伯
 魚花
 露白
 梅喜
 豊雨
 左儀
 暗雲
 春染
 木高
 柳末
 琴岫
 三都屋
 下
 文章

春山

夜ハ秋のそらをよめる山 井海
 晴るりよる遠るやまの山 千穂
 そとく船の影を賑ふ山 得我
 えつて舟を渡るまを山 珠若
 舟を渡る影をよめる山 良久
 舟を渡る影をよめる山 清美
 舟のくまをよめる山 椿岳
 舟を渡る影をよめる山 旭若

片側ハ春のそらをよめる山 佳溪
 足元のつらぬおどろきの山 時習
 橋下くまのゆるみよの山 暗雲
 水色の影をよめる山 其一
 えとよめるまをよめる山 雪兆
 こよりの画像 澄一
 こよりのそらをよめる山 羽人
 わるるまをよめる山 蘭地
 おどろきの影をよめる山 寒湖
 おどろきの影をよめる山 寒左

春野

そらをよめる山 千葉
 そらをよめる山 宇辰

わらわをよめる山 寺山
 そらをよめる山 牛嶋美
 そらをよめる山 寒左

春水

山よりよる水 井海
 山よりよる水 錦洞
 山よりよる水 蒼雄
 山よりよる水 蕉月
 山よりよる水 可推
 山よりよる水 田柳
 山よりよる水 梅葉
 山よりよる水 令哉
 山よりよる水 常定
 山よりよる水 文彦

山よりよる水 茶楼
 山よりよる水 鳳尾
 山下有江々有舟岸松一
 抹春雲浮夕陽在水潭無
 影一幅描成冰雪秋
 水よりよる水 公儀
 水よりよる水 知遇
 水よりよる水 壽山
 水よりよる水 龜花
 水よりよる水 美梅

春海 春川 春雲 春空 春鳥 春暮

春海 春川 春雲 春空 春鳥 春暮

春海 春川 春雲 春空 春鳥 春暮

春海 春川 春雲 春空 春鳥 春暮

春海 春川 春雲 春空 春鳥 春暮

春海 春川 春雲 春空 春鳥 春暮

春海 春川 春雲 春空 春鳥 春暮

春海 春川 春雲 春空 春鳥 春暮

春海 春川 春雲 春空 春鳥 春暮

春海 春川 春雲 春空 春鳥 春暮

春海 春川 春雲 春空 春鳥 春暮

春海 春川 春雲 春空 春鳥 春暮

春海 春川 春雲 春空 春鳥 春暮

春海 春川 春雲 春空 春鳥 春暮

春まげ 春まね 春まぬ

春まげ 春まね 春まぬ

春まげ 春まね 春まぬ

春まげ 春まね 春まぬ

春まげ 春まね 春まぬ

春まげ 春まね 春まぬ

春まげ 春まね 春まぬ

春まげ 春まね 春まぬ

ト

鳥轉

鳥貝

鶏冠菜

和三日其形雞冠如紅色不付生ス

初射 早春渙人初得テ

方風 莖葉共青綠色莖深シ赤似青短少也初射紫紅色甘菜トシ

菠薐草 莖葉共脆ク中心也葉綠厚直ト出ニ尖一側出而尖四月莖ト起ス尺許就莖開細黃花雌ハ結子有刺杖擣ク食春種春食

春望 春凡過柳綠如綠晴日蒸紅出小挑階

春まげ 春まね 春まぬ

春まげ 春まね 春まぬ

春まげ 春まね 春まぬ

春まげ 春まね 春まぬ

春まげ 春まね 春まぬ

春まげ 春まね 春まぬ

春まげ 春まね 春まぬ

春まげ 春まね 春まぬ

春まげ 春まね 春まぬ

昔 似葦大根葉中空 脆折之有
汁莖高三四尺剥皮生食味如胡瓜

ぬく 暖也

遅日 春日遅々なり一ハ銀蟻之
正義曰一ハ日長之暖也

山葵 又用山薑二字一六七月成穂
二三寸相黄白花細子ヲ種テ

若布 石尊
書

鷓鴣巢

霞 一ハ赤氣之雲也 我口チカスミト
去モノハ漢主云霞謂之雲ニナレリ

霞衣 一薄キチ衣ニ
見ナクハ也

霞神 一衣
神

一波 山流ニ一ト
正酒云

霞窓

一若つク夕れ申。暮景 寥左

をまじりてやう後弱一霞の秀 寥左
をまじりてはれたるや白の存 遠山

多めりてやまの山吟の霞き 来古
旅との口わを別しるもいふ 寥左

一のすや古俗をよハ名々 寥左

霞網 水辺ニ非ス一ハ
アミ似ルチ云

霞海 葦舟物
水辺ニ非ス

霞色 霧ノミカキト同意
准テ知ベシ

霞谷 帝ノ
陵ニ

一関 名処

波

一沖

鐘 一春ノ長閑ニテ声ノ
ト云一ト夜分ニ非ス

霞洞 仙境ヲ
院御所

一命 仙人ハ一ラ服シ命ヲ延ルモノナレハ
長キ一ニ云ニ云也

八重 一ハ八深キ也必八重ニ非ス一ハ切ノ
モノ重リ多キカキリチ一ト号ス

九一 仙境ヲ
云ナリ

春布 霞ヲ云也
典凡布ナリ

やふくも多きありとあるや清きと
多し外やまむれぬの霧か
春外の山崎にてくきく
くすくすの一階海谷の霧
清一正ニあり。くきく
まきまきあり。くきく
本よりまき入やせうけぬ
磐城にて居る人なり

記のまきりもまきり
いさくあり上ハあやむ
清月をそよ風をそよ風
一志きく清のまきり
まきりそよ風をそよ風
月より同の山のまきり
松ハねむり時のもまきり

井海 見外 沙山 筍芭 錦玉 清川 金葩

樵歌 潮雨 孤立 籍二 可秋

